

# 学業指導の充実

～子どもが意欲的に取り組む授業づくりを通して～



写真 栃木県庁前のトチノキ

平成 26 年 3 月

栃木県総合教育センター



## はじめに

本県では、学級経営等の充実による「学びに向かう集団づくり」と、分かる喜びや達成感を実感させるための「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」を一体的に行う「学業指導」の充実を推進しています。このことに意図的・積極的に取り組むことにより、社会性や確かな学力の育成につながることが期待されます。

栃木県総合教育センターでは、過去に「栃木の子どもの学ぶ意欲の向上に関する調査研究」と「栃木の子どもの自己有用感調査」を実施し、それぞれの状況を測るシステムを構築し、指導の手立てを研究してまいりました。また、「栃木の学校力の向上に関する調査研究」を通して、教育の効果を上げるためには、学校全体で課題や重点目標を共有して指導に当たることが重要であることが分かりました。

今回の調査研究「学業指導の充実～子どもが意欲的に取り組む授業づくりを通して～」を進めるにあたって、教科指導の中で学ぶ意欲を高めることの重要性を踏まえ、特に、「栃木の子どもの学ぶ意欲の向上に関する調査研究」で得た知見を生かしながら、学業指導の柱の一つである「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」に焦点を当てることに留意しました。

そこで、本冊子は、これまでの研究成果を活用しながら、学業指導の充実を図る授業における指導の在り方、調査協力校における学ぶ意欲を高める学習指導や校内研修の実践、授業づくりに資する校内研修プログラム等についてまとめました。授業中の効果的な働きかけを通して、児童生徒一人一人の学ぶ意欲をはぐくみ、確かな学力を育成していくために、本冊子を御活用いただければ幸いです。

最後に、本調査研究を進めるにあたり、御支援、御尽力をいただきました栃木市教育委員会並びに栃木市立西方小学校の皆様、那珂川町教育委員会並びに那珂川町立小川中学校の皆様に、心から御礼申し上げます。

平成26年3月

栃木県総合教育センター所長 金井 正

## 目 次

はじめに

第1章 子どもが意欲的に取り組む授業づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1 学業指導とは

2 本県における学業指導の取組状況

3 研究の目的及び内容

4 PDCAサイクルを生かし、子どもが意欲的に取り組む授業をつくる

第2章 子どもが意欲的に取り組む授業づくり例・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

第3章 調査協力校の実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

1 栃木市立西方小学校

2 那珂川町立小川中学校

第4章 校内研修例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

研究のまとめ 学業指導を充実させる4つのポイント 64

資料編 65

参考文献・参考資料 70



# 第1章

## 子どもが意欲的に 取り組む授業づくり

---

「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」をキーワードに、本研究の背景、目的及び内容を解説します。

学業指導とは、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し社会性を身に付けたり、意欲的に学習活動に取り組んで学力を向上させたりして自己実現（社会的自立）を図っていくための指導・援助のことです。

本県では、平成21年1月に教職員用リーフレット「あなたは、学業指導を知っていますか！」を発行して以来、あらゆる活動を通して学業指導に取り組むことを推進してきました。

また、このリーフレットをもとに、平成24年3月に教職員のための指導資料「学業指導の充実に向けて」を作成し、集団づくり・授業づくりの視点や実践例、取り組む際の留意点を示しました。

右のQRコードを利用すると、それぞれの資料をご覧いただけます。



リーフレット



指導資料



指導資料  
「学業指導の充実に向けて」

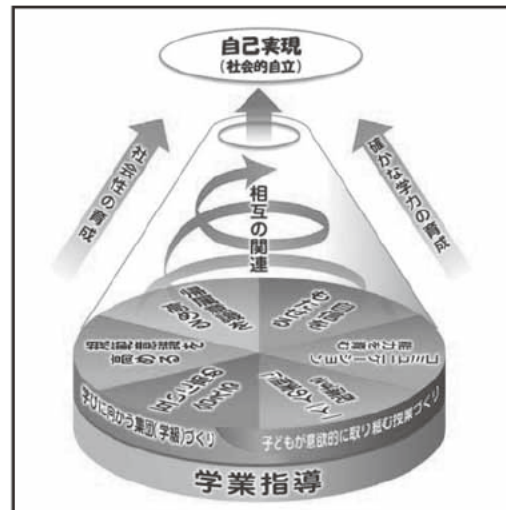
学業指導を推進するには、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の両側面から取り組むことが求められています。

右の図は、両者が相互に関連を図りながら、将来の自己実現（社会的自立）を目指していくことを表しています。ここで大切なのが、「相互の関連」です。図中に螺旋状に上昇している矢印が描かれていますが、これは、「集団づくり」と「授業づくり」を相互に関連させながら一体的に行うことを示しています。

例えば、

- ・「集団づくり」を意識した「授業づくり」
- ・「授業づくり」を意識した「集団づくり」
- ・「帰属意識の高い学級づくり」を「互いに高め合える学級づくり」につなげる。
- ・「コミュニケーション能力を育む授業づくり」を「自信をもたせる授業づくり」につなげる。

このように、縦にも横にも関連性があることを念頭に置き、意図的・計画的に実践していくことが大切です。



学業指導のイメージ図  
(上記指導資料p2 参照)

指導資料では、「学びに向かう集団づくり」の三つの視点とこれらの学級像を、また、「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の三つの視点とこれらの授業像を次のように示しています。

学びに向かう集団づくり	子どもが意欲的に取り組む授業づくり
<p><b>①【視点】帰属意識の高い学級とは</b> 一人一人が学級に所属感や連帯感を感じる居心地のよい学級です。</p> <p>このような学級では 児童生徒は自らが集団の一員であることに誇りをもち、集団に役立っていたり、必要とされていたりすることに喜びを感じています。また、人間関係は良好で関わり合いが活発に行われ、互いに認め合い仲間として協力し合って生活しています。</p>	<p><b>①【視点】自信をもたせる授業とは</b> 「できた」「分かった」という喜びや達成感が味わえる授業です。</p> <p>このような授業では 一人一人が活躍できる場が設定されており、よいところを認めたり、ほめたり、励ましたりする教師の意図的な働きかけがあります。発達の段階に応じて、選択の場面を設定し自己決定させ、成功体験を積み重ねます。また、教える内容を効果的に習得させるために教材・題材の開発と作成、発問や指示の構成などの指導方法の継続的な工夫・改善を続けています。</p>
<p><b>②【視点】規範意識の高い学級とは</b> 集団生活や対人関係におけるルールが児童生徒に共有され、当たり前のこととして定着している学級です。</p> <p>このような学級では 児童生徒はルールの意義を理解し、自主的に遵守しながら、規律ある集団生活をしています。不適切な言動が減り、集団内の人間関係が良好になります。</p>	<p><b>②【視点】コミュニケーション能力を育む授業とは</b> 協同で学ぶ「学び合い」がある授業です。</p> <p>このような授業では 学び合いの中で、児童生徒たちは自分の思いや考えを分かりやすく相手に伝えようとするとともに、相手の思いや考えを理解し尊重しようとしています。その繰り返しの中で、コミュニケーション能力が育まれます。授業の中にペア学習やグループ学習など、全ての児童生徒が話したり聞いたりする場があります。</p>
<p><b>③【視点】互いに高め合える学級とは</b> 児童生徒に建設的な相互作用がある学級です。</p> <p>このような学級では 児童生徒はそれぞれの個性や能力を発揮しながら生活し、互いをモデルにしたり切磋琢磨したりして意欲的に諸活動に取り組んでいます。また、学級内の生活や活動に自治が確立していて、集団としてもより高い目標達成に向けて一人一人が主体的に貢献しています。</p>	<p><b>③【視点】一人一人の実態に配慮した授業とは</b> 児童生徒の様々な能力や適性、特性に応じて、学習上の不適応状態を予防する手立てが実践されている授業です。</p> <p>このような授業では 一人一人の能力や適性、特性、意欲の状態等の現状を把握し、個に応じた支援策に基づき支援します。その際、教職員間で連携し、組織的な指導・支援体制を整えます。</p>

互いに関連を図り、指導を充実させる



## 本県における学業指導の取組状況

### (1) 学業指導の取組状況の概要

当センター研究調査部員が、ここ2年間に学校訪問や研修等で見聞きした県内小・中・高等学校の学業指導の取組状況を次に示します。

#### ① 学びに向かう集団づくり

指導資料「学業指導の充実に向けて」に示されているような取組が行われています。次に示すのは、主な取組例です。

学級（ホームルーム）経営上での取組例	教科指導に関わる取組例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会での呼名</li> <li>・帰りの会でのよい行動の発表</li> <li>・学級目標の作成</li> <li>・学校祭での取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム着席</li> <li>・学習のきまり</li> <li>・話し方・聞き方のきまり</li> </ul>
等	等

#### ② 子どもが意欲的に取り組む授業づくり

「学びに向かう集団づくり」と同様に、指導資料に示されているような取組が行われています。

授業中の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言しやすい教室環境づくり</li> <li>・「課題」を分かりやすく児童生徒へ提示</li> <li>・聞き方名人・話し方名人</li> <li>・学習形態の工夫</li> <li>・児童生徒の現状把握</li> </ul>
等

### (2) 質問紙調査から見える取組状況

リーフレット「あなたは、学業指導を知っていますか！」（栃木県教育委員会 平成21年）を基に、質問紙「集団や授業づくりに関するアンケート」（p66 参照）を作成し、当センターにおける教職2～5年目（5年目）及び教職10年目研修受講者を対象に調査を実施しました。

#### ① 実施期日

- ・平成25年7月12日（金）教職2～5年目（5年目）研修受講者
- ・平成25年7月24日（水）教職10年目研修受講者

#### ② 有効回答者数

学校種	小学校	中学校	高等学校
回答者数	139（5年目68、10年目71）	148（5年目68、10年目80）	47（10年目47）

#### ③ 質問紙調査の結果

「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の各項目の調査結果を右ページの表にまとめました。



## 「学びに向かう集団づくり」に関する調査結果

数値は4件法で調査した平均値

質問項目		全体	小学校	中学校	高校
帰属意識の高い学級	子どもたちが協力して取り組めるように活動を工夫している。	3.38	3.41	3.42	3.15
	一人一人が、個性や能力に応じた役割を担えるように工夫している。	3.09	3.12	3.09	3.02
	行事等に企画段階から子どもたちが関わられるように工夫している。	3.16	2.93	3.34	3.26
	他の学級、学年など、いろいろな集団との交流の場を設定している。	2.96	3.26	2.77	2.45
	子どもたちと感動を共有できるように心がけている。	3.54	3.53	3.64	3.30
規範意識の高い学級	学年、学級で守るべきルールを具体的に定めている。	3.60	3.71	3.57	3.26
	規律については教職員間の共通理解のもと、ぶれない指導を実践している。	3.39	3.42	3.39	3.28
	子どもたち自身に学級の約束を決めさせている。	2.95	3.09	2.93	2.42
	時と場に応じた行動がとれるように指導を工夫している。	3.36	3.44	3.36	3.11
互いに高め合える学級	日々の生活や行動を謙虚に振り返る時間や場を設けている。	2.96	3.04	2.99	2.42
	学級の目標を子どもたちと一緒につくっている。	3.34	3.40	3.56	2.06
	将来どんな生き方をしたいかを互いに話し合う機会を設けている。	2.53	2.40	2.66	2.48
	競い合う場面や助け合う場面を意図的に設定している。	3.15	3.24	3.12	2.94
当番活動や係活動を活用した学級経営をしている。	3.70	3.76	3.71	3.32	
平均		3.22	3.27	3.25	2.94

※ [4あてはまる 3どちらかといえばあてはまる 2どちらかといえばあてはまらない 1あてはまらない]

## 「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」に関する調査結果

数値は4件法で調査した平均値

質問項目		全体	小学校	中学校	高校
自信をもたせる授業	授業の中で一人一人が活躍できる場を意図的に設けている。	3.02	3.24	2.91	2.72
	子どものよいところを認めたり、ほめたり、励ましたりしている。	3.65	3.73	3.58	3.60
	一人一人の実態に応じて、授業の指導計画を工夫している。	2.73	2.81	2.68	2.64
	授業の中で児童生徒が自ら選択できるように、多様な学習方法を用意している。	2.44	2.48	2.45	2.28
コミュニケーション能力を育む授業	授業の中で友人の発表をしっかりと聞けるように指導している。	3.50	3.67	3.45	3.15
	授業の中で自分の考えをまとめ、発表できるように指導を工夫している。	3.04	3.24	2.98	2.68
	授業中に、考える、互いに教え合う、指導する場面をバランスよく設定している。	3.03	3.16	3.01	2.74
	授業中に小集団活動を取り入れ、子ども同士のコミュニケーションを促している。	3.24	3.39	3.29	2.64
	自己評価、他者評価を生かした授業を実践している。	2.64	2.67	2.67	2.43
一人一人の実態に配慮した授業	学習不適應の解決に、教職員が協力して取り組んでいる。	3.23	3.39	3.14	3.04
	日記、作文などとおして、自分の心を表現する指導を行っている。	3.30	3.32	3.45	2.48
	実態調査、教育相談などとおして、学習不適應の把握に努めている。	3.43	3.45	3.44	3.29
平均		3.10	3.21	3.09	2.80

※ [4あてはまる 3どちらかといえばあてはまる 2どちらかといえばあてはまらない 1あてはまらない]



#### ④ 集計結果の特徴

※ここでは「学びに向かう集団づくり」を「集団づくり」、「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」を「授業づくり」と表記する。

○「集団づくり」(3.22)と「授業づくり」(3.10)の平均値は共に高く、良好な取組がうかがえるが、「集団づくり」の値の方がやや高い。

○学校段階が進むにしたがって、多くの内容項目の平均値が低下していく傾向がある。特に「授業づくり」では、その傾向が顕著である。

○全ての学校段階において次の項目の平均値が高い。

〈授業づくり〉

・「子どものよいところを認めたり、ほめたり、励ましたりしている。」

(小：3.73、中：3.58、高：3.60)

○全ての学校段階において次の項目の平均値が低い。

〈授業づくり〉

・「授業の中で児童生徒が自ら選択できるように、多様な学習方法を用意している。」

(小：2.48、中：2.45、高：2.28)

○小・中学校において次の項目の平均値が高い。

〈集団づくり〉

・「子どもたちと感動を共有できるように心がけている。」 (小：3.53、中：3.64)

・「学年、学級で守るべきルールを具体的に定めている。」 (小：3.71、中：3.57)

・「当番活動や係活動を活用した学級経営をしている。」 (小：3.76、中：3.71)

○高等学校では全体的に平均値がやや低い。

#### (3) 学業指導の取組状況のまとめ

○学業指導の充実に向けた取組が、県内の小・中・高等学校において着実に進められている。

○指導資料「学業指導の充実に向けて」に示されている実践例と同様の取組が行われている。小・中学校での「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」については、「授業における決まりごと」のような取組が中心である。

○学校段階が進むにしたがって、質問紙項目の数値が低下している。この原因の一つとして、校種による学級（ホームルーム）経営の性質の違いが考えられる。

学業指導の充実に向けた取組が、各学校で着実に  
行われていますね。



## 3

## 研究の目的及び内容

## (1) 研究の目的

学業指導においては、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の両面が大切です。本研究では、本県の学業指導の取組状況を踏まえて、特に、各教科での授業づくりと学校全体での組織的な取組について方向性を明らかにすることにより、学業指導をより充実させることができるのではないかと考えました。

そこで、次のような研究の目的を設定しました。

**【研究の目的】**

学業指導における「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」に関して、教員や学校の具体的な取組についての調査研究を行うことを通して、児童生徒の確かな学力の育成を目指す。

(併せて、教科の授業における集団づくりの手立てを示す。)

## (2) 「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」と「学ぶ意欲をはぐくむ授業づくり」の関係

**【研究の目的】**で取り上げた「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」について、どのように捉えればよいでしょうか。「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」は、学業指導における2本の柱の一つです。当センターでは、平成22年度に「学ぶ意欲をはぐくむ」ことに関する調査研究を行いました。しかし、「学ぶ意欲をはぐくむ」ことが「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」と何らかの関連があるのではないかと考えました。

ここで、当センターにおける「学ぶ意欲をはぐくむ」ことの捉えについて確認します。

## ① 学ぶ意欲について

学力の重要な三つの要素の一つに学習意欲があります。当センターでは、これを学ぶ意欲と同義と捉え、次のように定義しました。

**学ぶ意欲**

学習者が意思をもって、自発的に学習活動を求めようとする心の働き

- 学習活動そのものに対する欲求…「学ぶこと自体がおもしろい」「知りたいから学ぶ」
- 自己実現の手段としての欲求…「よい成績を取りたい」「希望する職業に就くために学習する」

調査研究を進める中で、学ぶ意欲の構成要素や学ぶ意欲が育っていくプロセスを模式的に表したものが次のページの図です。



② 学ぶ意欲の構成要素

学ぶ意欲のプロセスモデルに示した各構成要素の解説を次に示します。

[各構成要素の解説]

レベル	構成要素	解説
認知・感情	おもしろさ・楽しさ	結果に依存しない感情で、失敗したとしても感じることができ、知的な好奇心が活性化していれば得られる感情。
	有能感	学習行動がうまくいったとき、成功したときに感じる人が多い感情。ほめられることにより、高まることもある。
	充実感	向社会的欲求に基づく動機が達成された場合に感じる事ができる感情。
学習行動	情報収集	主に知的な好奇心によって、興味・関心のあることについて情報を集める行動。
	自発学習	自ら進んで学習に取り組んだり、計画を立てて学習をしたりする行動。
	挑戦行動	今よりも少し難しい問題に挑戦する行動。
	深い思考	問題の解決法を複数考えたり、よりよい解決法を考えたり、仮説や考えを自分なりに吟味したりする行動。
	独立達成	できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとする行動。
	協同学習	友達と協力して問題を解決する行動。
欲求・動機	知的な好奇心	未知のことや珍しいことに興味・関心をもち、それらを探究したいという欲求。
	有能さへの欲求	より有能になりたい、より賢くなりたいという欲求。
	向社会的欲求	社会や人のためになりたいという欲求。思いやりの気持ちとも関連する。

- ・安心して学べる環境：児童生徒の学ぶ意欲を高めるための子どもを取り巻く物的環境や人的環境（学ぶ意欲の構成要素ではないが、学ぶ意欲をはぐくむ上で土台となるもの）



③ 「学習に関するアンケート」について

学ぶ意欲をはぐくむためには、学ぶ意欲の現状を把握する必要があり、その方法の一つとして質問紙法があります。当センターでは、小学校3年生以上を対象とした「学習に関するアンケート」を作成し、ホームページ上で公開しています。アンケートのデータを「学ぶ意欲分析ツール」に入力することで、学校が学ぶ意欲の分析結果を得られるようにしました。

「学習に関するアンケート」は、本冊子 p 68にも掲載しています。



学ぶ意欲分析ツール

「学ぶ意欲をはぐくむ」ことと「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の関連の検討に話題を戻します。「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」には、先述したとおり「自信をもたせる授業」「コミュニケーション能力を育む授業」「一人一人の実態に配慮した授業」の三つの視点（p 3 参照）があります。そこで、この三つの視点と「学ぶ意欲の構成要素」や学ぶ意欲の測定との関係について、次に示します。

ア 「自信をもたせる授業」と「学ぶ意欲の構成要素」との関係

「自信をもたせる授業」とは、『できた』『分かった』という喜びや達成感が味わえる授業です。つまり、「有能感」を高める授業と言えます。「有能感」を高めるには、成功体験を積ませることが必要です。成功体験に導くには、構成要素「独立達成」、「協同学習」、「挑戦行動」などへの働きかけが有効であると考えられます。

➡ 「自信をもたせる授業」と「学ぶ意欲の構成要素」への働きかけには強い関係がある。

イ 「コミュニケーション能力を育む授業」と「学ぶ意欲の構成要素」との関係

「コミュニケーション能力を育む授業」とは、「協同で学ぶ『学び合い』がある授業」です。この「協同で学ぶ『学び合い』がある授業」とは、構成要素である「協同学習」を行う授業と重なります。つまり、話し手として相手に分かりやすく伝えたり、聞き手として相手の話と自分の考えの共通点や相違点を整理したりするように指導することで、コミュニケーション能力を育むことができます。

コミュニケーション能力を育てるために、児童生徒が学び合う必要性を感じるような「知的好奇心」に働きかける課題を設定することも大切です。

➡ 「コミュニケーション能力を育む授業」と「学ぶ意欲の構成要素」への働きかけには強い関係がある。

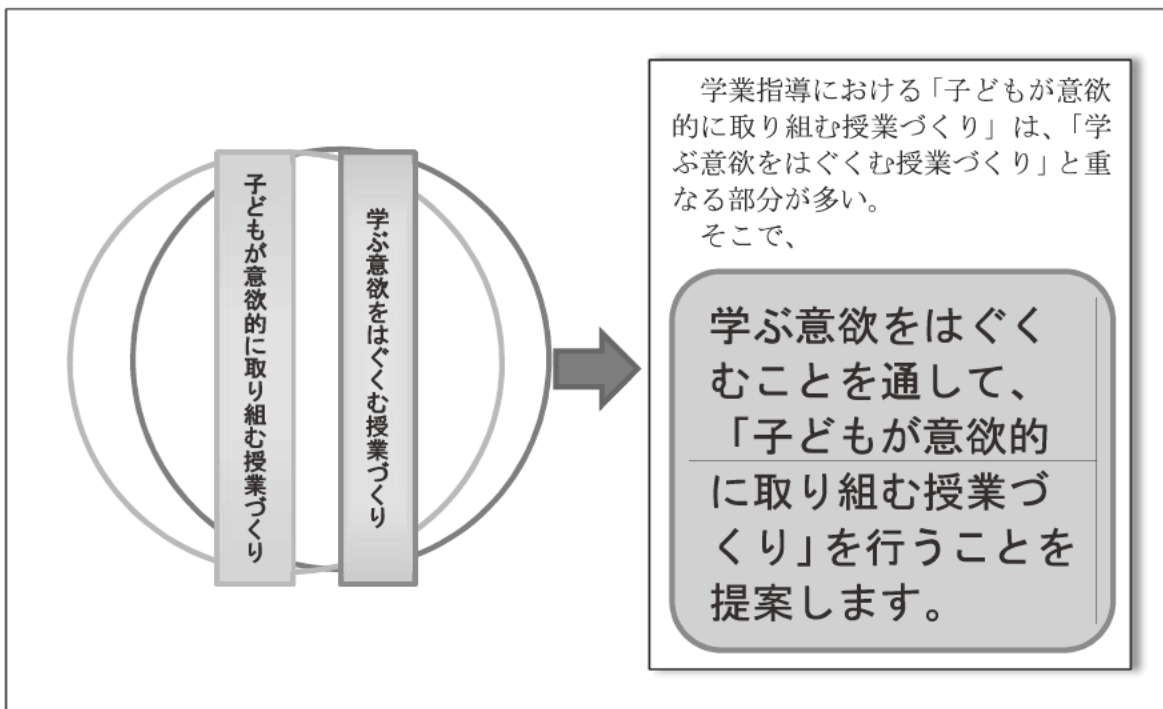
ウ 「一人一人の実態に配慮した授業」と学ぶ意欲の状況の把握との関係

「一人一人の実態に配慮した授業」のポイントの一つとして、児童生徒の学習状況の把握が挙げられています。実態把握に基づき、時には、個に応じた課題を設定したり多様な学習課題を提示したりすることが大切です。

学習状況は、授業中の様子やテスト、質問紙調査などを通して把握します。学習意欲も学力を支える重要な要素であることから、学ぶ意欲を測る質問紙（学習に関するアンケート）（p68 参照）も、学習状況を把握する方法の一つと言えます。

➡ 「一人一人の実態に配慮した授業」と学ぶ意欲の状況の把握には強い関係がある。

ア、イ、ウから、「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」と「学ぶ意欲をはぐくむ授業づくり」の関係は、次に示す図のようにまとめられます。両者の考え方には共通する部分が多いと考えられます。



以上のことから、「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」を知見の蓄積のある「学ぶ意欲をはぐくむ授業づくり」とほぼ同義と捉えて調査研究を行うこととし、次のように【研究の内容】を設定しました。



## (3) 研究の内容

**【研究の内容】****ア 教科指導における「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の提案**

「第2章 子どもが意欲的に取り組む授業づくり例」(p16~)

**イ 調査協力校の実践（子どもが意欲的に取り組む授業づくり、校内研修、児童生徒の実態の把握等）の紹介**

「第3章 調査協力校の実践」(p34~)

**ウ 子どもが意欲的に取り組む授業づくりに資する校内研修プログラムの提示**

「第4章 校内研修例」(p56~)

- ※ ア、イにおいては、授業の中で行う「学びに向かう集団づくり」の具体例についても紹介します。
- ※ イにおいては、学ぶ意欲と自己有用感の調査結果を基に、「協同学習」と自己有用感の関係等について解説します。

**ここに注目！①****授業の中で行う「学びに向かう集団づくり」(1)**

集団づくりは、主に、学級（ホームルーム）経営、学級（ホームルーム）活動、学校行事を通して行われます。しかし、授業における学習活動の場も学びに向かう集団づくりの場になります。

ここでは、授業中の工夫を凝らした取組が「学びに向かう集団づくり」に役立つことについて確認します。

**○授業の中での、「帰属意識の高い学級」、「互いに高め合える学級」づくり**

子どもたちは、協同学習を通して、互いに学び合ったり教え合ったりすることで、自分が「役に立っている」という意識や自信をもつようになります。また、授業中に子どもが間違った発言をした際に、教師がその発言を尊重し授業展開の中でうまく生かすことで、自信を失うことなく再び発言しようと思うでしょう。授業中の配慮により、学級全体において、他者の意見を尊重する雰囲気や醸成することができます。

こうしたことを地道に積み重ねていくことにより、一人一人が所属感や連帯感を感じる学級、互いに高め合える学級がつくられていきます。

**○授業の中での「規範意識の高い学級」づくり**

話し方・聞き方、ノートの取り方、話合いの仕方等の決まりにしたがって授業に臨ませることが、子どもたちが円滑に学習できることを実感することや授業以外の部分でも進んでルールやマナーを守ることに繋がります。

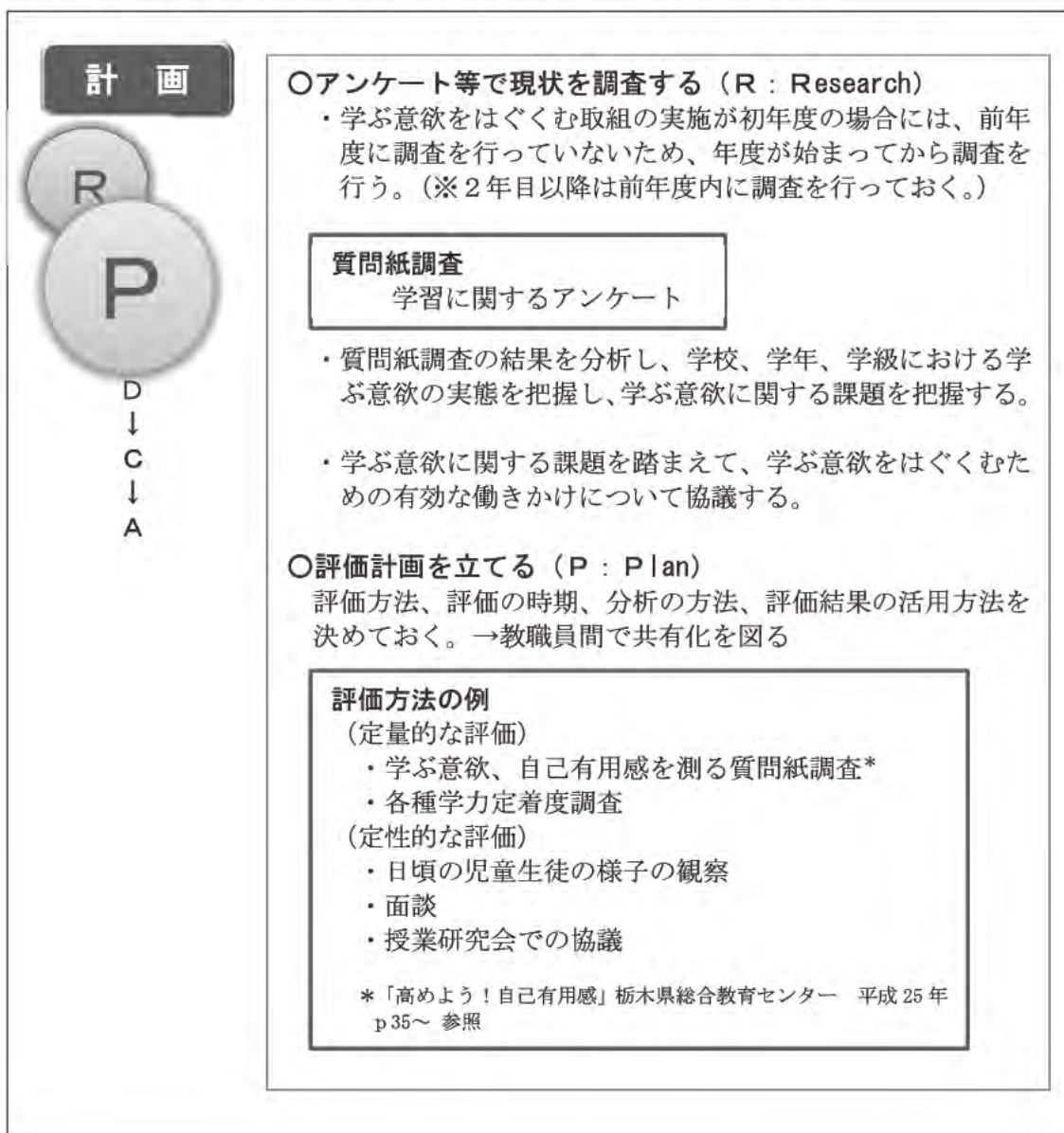


## 4 PDCAサイクルを生かし、子どもが意欲的に取り組む授業をつくる

学ぶ意欲をはぐくむ場の中心が授業であることは言うまでもありません。しかし、学ぶ意欲をはぐくむ営み、そして児童生徒への具体的な働きかけを、教師が個人で考えて実践するだけで高い教育効果を得られるでしょうか。その実践が個人の中で閉じてしまうことになり、教職員間での取組の共有化やその効果の検証をすることは難しいでしょう。

そこで必要になってくるのが、PDCAサイクルの確立です。まず、児童生徒の状況を把握した上で計画を立てます。そして、全教職員で手立てを共有し、教育活動（授業）の中で実践を進めます。一定の期間を経て、児童生徒の学習状況（ここでは学ぶ意欲の状況）を把握した上で成果と課題を明確にし、次年度の学校課題や指導計画に反映させます。こうしたPDCAサイクルの各段階における有効な手法が校内研修と言えます。

PDCAサイクル各段階の考え方の例について、次の図に示します。





P  
↓

実施

D

↓  
C  
↓  
A

**○普段の授業の中で、適切な働きかけを行う**

- ・年間指導計画における単元（題材）の展開のどの場面で働きかけることが有効であるかを検討した上で、授業の中で適切な働きかけを行う。

**○計画を柔軟に変更する**

- ・働きかけの方法等については、児童生徒の実態や学びの状況によって、柔軟に変更する。

**○記録を蓄積する**

- ・年度末の総括的な評価に生かすために、実践段階での即時的な評価と変更した事項の記録を蓄積しておく。

P  
↓  
D  
↓

評価

C

↓  
A

**○評価計画に基づき評価を行う**

評価のための材料

- ① 日常の授業記録
- ② ワークショップ型授業研究会の協議記録（教師の見取りや実感）
- ③ D（実施）の前後に実施した「学習に関するアンケート」の記録

※①～③の結果を分析し、働きかけの効果を検証する。

**○成果と課題を明らかにする**

- ・課題だけでなく成果とその要因等を明らかにする。（※ 記録などに基づいて客観的に行いたい。）

P  
↓  
D  
↓  
C  
↓

改善

A

**○開発した働きかけを共有化し、継承システムを構築する**

- ・効果があった実践や働きかけは整理した上で記録に残し、今後も継続して取り組んでいけるようにする。
- ・例えば、研究授業や授業研究会で学んだ働きかけの方法を、それぞれの教師が自分の授業で実際に取り入れ、それらを見合う授業公開の場を計画的に設定する。

**○学校課題等へ反映させる**

- ・成果や課題について、次年度の学校課題や指導計画にどのように反映させていくか検討する。



## 有能感と称賛

当センターが平成 22 年度に行った「学習に関するアンケート」(小 3～中 3)の結果から、次のような特徴が分かりました。

- ・「有能感」はどの学年も、平均値が最も低い。
- ・発達にしたがって、平均値が低下している。

学年段階が上がれば学習内容が難しくなるため、「自分は勉強ができるほうだと思う。」といった「有能感」が低くなることは、ある程度やむを得ません。こうした発達の段階にある子どもたちの「有能感」を高めるのは容易ではないでしょう。

とは言え、新たな学ぶ意欲を喚起するためにも、「有能感」を少しでも高めていきたいものです。「有能感」を高めるには、「できた」「分かった」という喜びや達成感を味わわせるために、授業の展開を工夫したり、努力を要する子どもへの適切な支援をしたりすることが大切です。加えて、教師による称賛も欠かせません。

「学ぶ意欲をはぐくむ」リーフレット(栃木県総合教育センター 平成 25 年)では、有能感を感じられるように、教師による言葉かけの大切さを次のように示しています。

- タイミングよく具体的な言葉かけをする。
- 子どもなりの発想を認め知的好奇心をもたせる。

また、指導資料「学業指導の充実に向けて」では、満足感・達成感を味わわせるために教師からの称賛について次のように示しています。

- 「小さいことから」「具体的に」「多様な方法で」の 3 点を心がけて、児童生徒をほめる。
- 一人一人の児童生徒に応じた声かけをする。
- 学習結果ばかりでなく、その答えに至るまでの考え方や過程、努力にも視点を当てる。
- 活動中にも賞賛を行い、学習意欲の持続につなげている。
- ほめるタイミングやほめ方を工夫している。

特に重要なのは、「学習結果ばかりでなく、その答えに至るまでの考え方や過程、努力にも視点を当てる」ことです。どの教師も、できたことをほめることは行っていることと思います。しかし、できたことだけをほめる意識でいると、学力が定着していない子どもをほめにくくなってしまいます。特に学校段階が進むと学習内容が難しくなるので、その傾向が顕著となります。

そこで、結果だけを見ることなく、学習過程の中で、些細なことであってもその子どもができたことや、教師が「いいな」と思ったことをほめることが大切です。併せて、例えば、自分の考えを根拠とともに説明することによって思考力を働かせることの大切さについて、普段から子どもたちに説明することが必要です。学習過程の大切さを理解させないと、いくら過程でほめても、結果に目が向いてしまい有能感が高まりません。

学習過程でのちょっとした達成感を感じさせるための教師による称賛の積み重ねが、勉強が苦手な子どもの有能感を少しでも高める手立てとなるのではないのでしょうか。

発達の段階によって、称賛の受け止め方や意欲への結びつき方が変わってきます。次のような点に注意しましょう。

## ○小学校

- ・教師の称賛が中心。(授業の中でよさをほめ、間違いも大切にしている教師の姿勢が、児童の姿勢にも影響する。)

## ○中学校・高等学校

- ・教師は全体の前ではなく個別に称賛する。(周囲からの目が気になる場合)
- ・教職員間でよさを共有する。(他の先生からほめられることで、自分は多くの人に認められているという気持ちになる。) そのよさを家庭にも伝えていく。
- ・学び合いの中で、子どもが互いに相手のよさに気づき、振り返りの相互評価で称賛し合う。

## 第2章

# 子どもが意欲的に 取り組む授業づくり例

---

小・中学校における子どもが意欲的に取り組む授業づくりの例を紹介します。



## 子どもが意欲的に取り組む授業づくり例について

ここでは、学ぶ意欲をはぐくむための「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」の各プロセスにおける教師の意図的な働きかけの考え方を踏まえ、参考となる授業（単元）づくりの例を紹介します。

小学校は国語、社会、理科、音楽、中学校は数学、技術・家庭（技術分野）、外国語について取り上げています。一部の教科の事例のみ紹介していますが、その教科の他の単元（題材）や他の教科にも適用できるように配慮しました。

### 1 授業づくり例の概要

（最初に、教科名、学校種学年、働きかけを行う「学ぶ意欲の構成要素」を明示）\*

- 1 単元（題材）名
- 2 単元（題材）の目標
- 3 教材（題材）または単元
- 4 主な学習活動
- 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント



\*いくつかの事例では、「学ぶ意欲の構成要素」への働きかけに加えて、「学びに向かう集団づくり」へのつながりについて言及しています。集団づくりの3視点（p 3 参照）については、以下のように省略して示しています。

- ・**帰属意識**…帰属意識の高い学級
- ・**規範意識**…規範意識の高い学級
- ・**高め合える**…互いに高め合える学級

### 2 活用

各学校では、これまでも学力の三つの要素の一つである学習意欲をはぐくむ授業を行ってきました。以下に示す事例を参考にして、授業中に学ぶ意欲の構成要素への効果的な働きかけを行い、より一層、学ぶ意欲をはぐくんだり、授業に意欲的に取り組む態度を身に付けさせたりしていただきたいと思います。

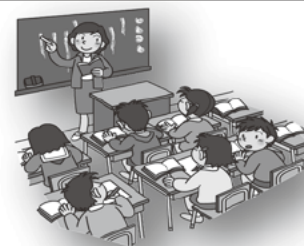
授業は、単元（題材）の目標や本時のねらいの達成を目指して展開されます。学ぶ意欲をはぐくむことを意識するあまり、授業のねらいの達成がおろそかにならないように注意することが大切です。

※ 事例の「5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント」の中に出てくる「有能感」等の構成要素については、p 8の解説を参照してください。



授業づくり例一覧

	教科名	学年	単元（題材）名	働きかける構成要素	集団づくりの視点
小学校	国語	1年	「のりものずかん」をつくろう	有能さへの欲求 挑戦行動 有能感	
	社会	6年	戦国時代からどのようにして安定した江戸時代になったのだろうか	知的好奇心 有能さへの欲求 深い思考 協同学習	帰属意識 (帰属意識の高い学級)
	理科	5年	物の溶け方	知的好奇心 情報収集 独立達成 深い思考	
	音楽	4年	音の重なりと反復のおもしろさを感じ取ろう	知的好奇心 おもしろさ・楽しさ	高め合える (互いに高め合える学級)
中学校	数学	2年	式の計算	知的好奇心 自発学習 協同学習 深い思考 おもしろさ・楽しさ	帰属意識 (帰属意識の高い学級)
	技術・家庭 (技術分野)	1年	家族の役に立つ小物入れを考えよう (製作品の設計)	向社会的欲求 情報収集 協同学習 挑戦行動 充実感 有能感	
	外国語	3年	Let's Read 2 「Roy Brown - Boy Detective」	知的好奇心 協同学習 深い思考	高め合える (互いに高め合える学級)



1 単元名 「のりものずかん」をつくろう

2 単元の目標

- ・知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。
- ・事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。

3 教材 じどう車くらべ（光村図書 1年）

4 主な学習活動

単元の展開（全12時間）

	学習活動	指導上の留意点
第1次 (1)	◆どんな自動車があるか話し合ったり、教師が作成した「のりものずかん」を読んだりして、単元の見通しをもつ。 <b>有能さへの欲求</b>	・興味・関心を高めるために、自動車について知っていることを自由に発言させる。
第2次 (7)	◆教材文「じどう車くらべ」を読み、6種類の自動車を説明する文章の構成に気付いたり、「しごと」と「つくり」を読み取ったりしながら、「のりものずかん」をつくる。  ・「じどう車くらべ」を読み、文章の構成について考える。  ・バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を確かめ、ワークシートにまとめ、余白に絵を描く。  ・トラックの「しごと」と「つくり」を確かめ、ワークシートにまとめ、余白に絵を描く。  ・図鑑のトラックの「しごと」を見つけ、ワークシートにまとめる。  ※クレーンとはしご車についても、トラックと同様の活動を行う。	・目的意識をもって教科書教材を読み取るようにするために、教科書教材に加えて自分が調べた乗り物の中から、お気に入りの乗り物を選び、「のりものずかん」をつくる活動を設定する。  ・第2次の教科書教材を読み取る時間において、並行読書をしている本や図鑑を読む時間を設定する。授業の後半に短時間でも設定することにより、教科書教材で学んだ必要な情報を見つける観点をすぐに自分の図鑑の読みに適用させるようにする。
第3次 (4)	◆好きな乗り物について図鑑で調べ、「のりものずかん」をつくり、読み合う。 <b>挑戦行動</b>  ・好きな乗り物の「しごと」と「つくり」を読み取る。  ・友達と交換して読み合い、感想を書く。	・完成した「のりものずかん」を友達と交換して読み合うことにより、課題が解決したことを実感させるようにする。 <b>有能感</b>

並  
行  
読  
書





## 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント

### (1) 有能さへの欲求

#### ～単元のはじめに、教師が言語活動のモデルを示しましょう～〔第1次〕



これまでも言語活動を位置付けた授業が行われてきました。しかし、第1次では全文を通読し、第2次では教科書教材の内容や構成を段落ごとに平板に読み、第3次に入る際に児童に向けて、「それでは、『のりものずかん』をつくりますよ。」というように、付加的に言語活動を位置付ける単元構成が散見されました。

このような流れであると、児童は見通しをもたずに単元の学習に入り、第2次の教科書教材の学習についても、目的をもたずに受け身的に授業を受けることとなります。そこで、1年生なりに、どんなゴールに向かってどのように学習していくかをイメージさせていく必要があります。

教師が「のりものずかん」のモデルを示すことにより、児童は言語活動の見通しをもつことができるとともに、「これならば、自分にもつくれそうだ。」という気持ちが湧いてきます。それが「もっとできるようにになりたい」といった有能さへの欲求の高まりにつながります。

### (2) 挑戦行動、有能感

#### ～図鑑を読むことにチャレンジさせましょう～〔第3次〕

教科書の説明的文章は、事柄の順序が児童にとって分かりやすく整理されて書かれています。一方、図鑑は、児童向けのもものではあっても、それぞれの乗り物の説明内容が多く、構成も教科書教材ほど整理されていません。そのため、第2次で学んだ教科書教材の読み方や観点を、図鑑での読みうまく生かしていないという状況が少なからずあるようです。

ここで、指導者が、「図鑑を読ませるのは難しいし時間もかかる。」と考え、図鑑を読ませるのをあきらめてしまうのはどうでしょうか。分かりやすい文章ばかり読んでいては、実際に使える読みの力や他教科や実生活で生きて働く力も身に付かないでしょう。

やはり、図鑑の読みに挑戦させることが大切です。もちろん、1年生ということを考慮して、次のような教師の支援が必要になってきます。

#### ◆図鑑の準備をしておく

学校図書館担当職員等の協力を得て公共図書館等から借りるなど、児童の実態に応じた図鑑を用意する。苦手な児童のために、比較的情報量が少なく内容も平易な乗り物の絵本なども準備する。

#### ◆手助けとなる教師自作の教材を提示する

教科書教材と図鑑を比べると、構成や内容等の難易度に差がある。そこで、その差を埋めるような、構成や文型がやや複雑な教師自作の教材を使い、「しごと」や「つくり」の部分を見つけてまとめさせる活動を行う。このことが、教科書教材と図鑑との橋渡しとなり、図鑑の読みを助けることになる。

#### ◆第2次の1単位時間の読みの授業の中で、教師自作の教材や図鑑を読む時間を確保する

児童は成長するにしたがって、第3次の言語活動に生かしていくことを考えながら、第2次の学習に取り組むことができる。しかし、低学年の多くの児童は、その時間に学んだことを長い時間もち続けることが難しい。そこで、短い時間でもよいので、教科書教材の読みの時間の最後に、学んだことを生かして教師自作の教材や図鑑から情報を見付けることを行うことが大切である。

#### ◆個への支援を充実させる

適切な図鑑を提供したり、「しごと」が書かれている部分のキーワードや「しごと」と「つくり」の順番について助言したりするなど、その児童の状況に応じたきめ細かい支援を行う。

個に応じた支援をした上で図鑑を読ませる（挑戦行動）ことで、「私も難しい本が読めるんだ。」といった有能感を得ることができます。また、授業後の振り返りも有能感を高める上で効果的です。

1	単元名	戦国時代からどのようにして安定した江戸時代になったのだろう	
2	単元の目標	戦国の世から江戸の世へどのように変化したかについての学習問題を見出し、地図や年表などの資料を活用して調べることを通して、戦国の世が統一され、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことが分かる。	
3	教材	戦国の世から江戸の世へ（東京書籍 6年）	
4	主な学習活動	(1) 単元の展開（全9時間）	
		学習活動	指導上の留意点
第1次 (2) 本時		・戦国時代の様子を調べ、どのように全国が統一されたか関心をもち、「だれの、どのような取組によって、争いの多い戦国時代から安定した江戸時代に変化したのか」という学習問題を見出し、学習計画を立てる。	・長篠合戦図屏風絵から、どのような戦いでどのような人物が関わっていたかを考えさせる。 ・信長、秀吉、家康の勢力図や年表を示し、やがて全国が統一され、安定した江戸時代になったことを確認させ、時代を概観させる。
第2次 (3)		・学習計画をもとに、3人の武将の働きと全国統一の関わりについて調べる。	・3人の武将の人物像や働きを比較したり、結びつけたりしながら、グループで調べさせる。
第3次 (3)		・学習計画をもとに、江戸幕府の政治について調べる。	・大名の統制や身分制度の徹底、キリスト教の禁止や鎖国について、江戸時代の安定との関わりで調べさせる。
第4次 (1)		・学習問題について分かったことをまとめる。 <b>深い思考</b> <b>協同学習</b>	・個人で考えたことを、グループ内で交流させることで思考を深めるようにし、最後は個に戻してまとめさせる。
		(2) 本時の学習（1～2／9時間）	
		① 長篠合戦図屏風絵から、戦国時代の戦いの様子について、気付いたことをグループで確認する。 <b>知的好奇心</b> <b>協同学習</b> <b>帰属意識</b> (気付きの例) ・大勢の武士 ・長篠城 ・柵がある ・鉄砲隊 ・騎馬隊 ・武器の違い ・旗	
		② 織田軍と武田軍の戦い方の違いや信長、秀吉、家康3人の武将の位置から、これからの時代の変化についてグループで話し合い、予想する。 (予想の例) ・「織田軍には鉄砲隊や馬防柵が見られ、武田軍には、刀、やり、騎馬隊が見られる。織田軍の方が強そうだ。3人の武将が同じ織田軍の中にいることから、3人の武将の勢力拡大が予想される。」	
		③ 3人の武将の勢力図から、その変化を調べ分かったことを発表し合う。 (例) ・どんどん勢力が拡大した。 ・全国が統一された。 ・信長、秀吉、家康の順に広がっていった。	
		④ 3人の武将の主な年表や江戸時代の主な年表から疑問に思ったことを発表し合い学習問題をつくる。 <b>知的好奇心</b> <b>有能さへの欲求</b> (疑問の例) ・どのようにして260年も続く江戸時代になったのだろう。 ・3人の武将は、全国統一を目指して、どのようなことをしたのだろう。 (学習問題) 「だれの、どのような取組によって、争いの多い戦国時代から安定した江戸時代に変化したのか」	
		⑤ 予想をもとに学習計画を立てる。 (学習計画の例) ア 3人の武将の働きと全国統一の様子 イ 江戸幕府の政策（家光の政治、参勤交代、身分制度、鎖国など）	



## 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント

### (1) 知的好奇心

～単元のはじめに、児童の興味・関心を高める資料を示しましょう～〔第1次・本時〕

長篠合戦図屏風絵には、織田軍が鉄砲隊を組織して武田軍の騎馬隊を迎え撃つ様子が生き生きと描かれています。その中には、織田側の軍勢として参戦している織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が見られます。

多くの児童が知っている3人の有名な武将が、同じ合戦図に描かれていることは、「なぜだろう?」「結果はどうなったのだろうか?」という疑問を生み、**知的好奇心**を高めます。

～単元のはじめに時代を概観させ、時代の変化から疑問をもたせましょう～〔第1次・本時〕

本単元では、第1次に年表を用いて、戦国の世から争いのない安定した江戸時代になったことを概観させ、時代の変化に対する疑問をもたせます。

第1次の冒頭で、長篠合戦の様子から戦国時代の状況を学習した児童は、その後、時代を概観する学習を通して、江戸時代が約260年も続いた安定した時代だったことを知ります。そのため児童は、「どのような経緯で」「だれのどのような取組によって」全国が統一され、争いのない安定した江戸時代になったのかという疑問をもつことになり、**知的好奇心**が高まると考えられます。

### (2) 有能さへの欲求

～単元を貫く学習問題とその追究のための学習計画を立てさせましょう～〔第1次・本時〕

本単元では、第1次に戦国の世から江戸時代までを概観し、そこから出た疑問をもとに、単元を貫く学習問題「だれの、どのような取組によって、争いの多い戦国時代から安定した江戸時代に変化したのか」という問題解決のための学習計画を設定させることで、単元全体の学習に対する見通しをもたせます。

単元を貫く学習問題とその追究のための学習計画を確認することで、児童は「自分にもできそうだ」という前向きな気持ちを持ち、**有能さへの欲求**を高めます。

### (3) 深い思考、協同学習

～友達との考えを比較する場を設定し、様々な見方、考え方に気付かせましょう～〔第4次〕

「だれの、どのような取組によって、争いの多い戦国時代から安定した江戸時代に変化したのか」という単元を貫く学習問題に対する自分の考えをまとめさせるために、自分の意見をもたせた上でグループ内の意見交流を行い、友達の意見に触れさせます。

交流させたり相互評価させたりすることで、児童は新たな視点に気付き、**深い思考**をすることができます。グループ内の交流の後には、再度個人でまとめさせることで、思考の変容を感じさせることもできます。

### (4) 協同学習

～友達と協力して学ぶ場面を設定し、友達に教えたり教わったりさせましょう～

〔第1次・本時〕

長篠合戦図屏風絵から戦国時代の様子や織田、武田両軍の戦い方の違いを考えたり、3人の武将のその後の動きを予想したりする場面では、グループ活動を取り入れます。織田軍の鉄砲隊と馬防柵、武田軍の騎馬隊など戦法の違い以外にも、様々な身分の武士、様々な旗印、長篠城、中央に川が流れている様子など、図屏風絵から読み取れることはたくさんあります。また、図屏風絵の中での信長、秀吉、家康の位置からは、3人の武将の勢力の拡大を予想することができます。

図屏風絵を児童が囲み、気付いたことを教え合うなど、**協同学習**の場を設定することで、協力すれば多くのことに気付くことができるということを実感させるとともに、友達に教えることで集団から認められ、学級への帰属意識が高まり、**学びに向かう集団づくり**につながると考えられます。



1 単元名 物の溶け方		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>物が水に溶ける量について水の量や温度などの条件を整えて調べたり、溶けた物がどうなったかを図に表したり友達と話し合ったりしながら物が水に溶ける規則性について考えようとする。</li> <li>物が溶けるときの様子を、条件を設定し多様な方法で繰り返し実験したり、集めた実験結果を比べて溶けた物がどうなったか考え、図などを使って友達と話し合ったりして、物が水に溶ける規則性について自分の考えをもつことができる。</li> <li>水の量や温度などの条件を正しく設定したり、計量器具や加熱器具などを安全に使う実験したりして、実験の結果を表やグラフに分かりやすく記録することができる。</li> <li>物が水に溶ける量には限度があること、物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うことやこの性質を利用して溶けている物を取り出すことができること、物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことが分かる。</li> </ul>		
3 単元 身近な食塩などの物質の溶ける現象と溶けない現象を体験させ、生じた疑問を追究させる。まとめとして、実生活との関わりを意識させるために、パンフレットを作成する活動を設定する。		
4 主な学習活動		
単元の展開（全14時間）		
	学習活動	指導上の留意点
第1次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>物が水に溶ける様子をよく見たり、物が水にどこまで溶けるか調べたりして、単元の見通しを立てるとともに、溶けた物の状態を表すモデル図をかく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【導入時の実験例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食塩が溶ける様子をよく見てみよう。</li> <li>水の温度を変えると溶ける量はどれくらい違うのだろう。</li> <li>決まった水の量に食塩やミョウバンはどれくらい溶けるのだろう。</li> <li>溶かす物の形をよく見よう。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元で学ぶことに関する生活経験の不足を補う活動や単元を通して学習する内容を理解するための実験を実際に体験することで、本単元の見通しをもつことができるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>知的好奇心</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物が溶けたときに水の中でどのような状態になっているかモデル図をかくことで、溶けた物がどのような状態になっているか関心を高めるようにする。</li> </ul>
第2次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの活動を通して、物が溶けるときの疑問に思うことなどを友達同士で話し合い学習問題をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物が溶けることについて自分の考えと友達のことを比べ、学習問題を話し合っている姿を称賛し全体の意欲付けを図る。</li> </ul>
第3次 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆水の量や水の温度と物が溶ける量の関係、溶けている物を取り出すことができること、物が水に溶けても水と物とを合わせた重さは変わらないことなどを、水の量や温度などの条件を正しく整えたり実験器具を正しく使ったりして調べる。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>情報収集</b> <b>独立達成</b> <b>深い思考</b></p> <p>水の量や水の温度と物が溶ける量の関係について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミョウバンなどが水の温度や量を変えたときに溶ける量がどれくらい増えるのか確認する実験</li> </ul> <p>溶けている物を取り出すことについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ろ過に関する実験</li> <li>蒸発乾固に関する実験</li> </ul> <p>物が水に溶けたときの水と物とを合わせた重さについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>質量の保存を確かめる実験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題について、水の量や温度、溶かす物などの条件を正しく設定し実験している児童や何度も繰り返しデータを出している児童を称賛し、問題解決の力や科学的なものの見方を身に付けさせる。</li> <li>アルコールランプなどの加熱器具やメスシリンダーなどの計量器具を安全に正しく使用している児童を称賛し、実験器具を安全に使用し正確なデータが取れるようにする。</li> <li>実験のデータなどから物が水に溶けたときの様子を再びモデル図に表して自分の言葉で説明できるように、説明のマニュアルを配布したりじっくりと考える時間を取ったりする。また、最初にかいたモデル図を修正していくよさを伝えていく。</li> </ul>
第4次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3次の活動でまとめたことを活用して、日常生活との関連させたり友達に見てもらったりすることを目的に「分かったことパンフレット」を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のパンフレットと見比べながら、学習したことと日常生活のつながりに気付いている児童を称賛し、学んだことと生活とのつながりを意識することの大切さを確認する。</li> </ul>



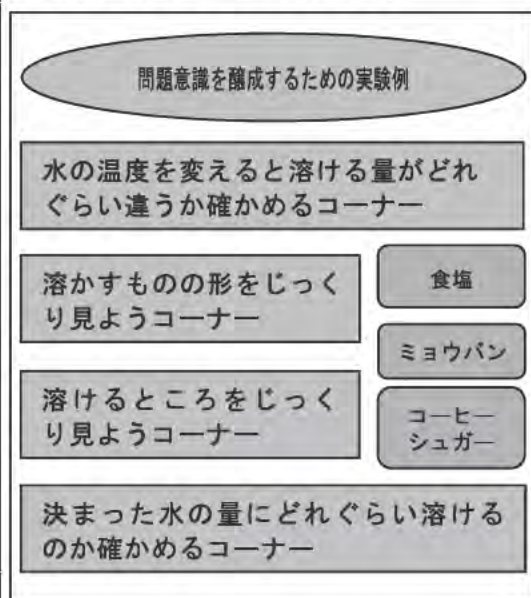
## 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント

### (1) 知的好奇心、情報収集

#### ～実験の見通しをもたせることで、主体的に学習に取り組みませましよう～〔第1次〕

単元の導入時に、教師が学習する内容を児童に提示することによって単元の見通しをもつことができます。しかし、観察、実験を行う際の「見通しをもつ」とは、「児童が自然に親しむことによって見いだした問題に対して、予想や仮説をもち、それらを基にして観察、実験などの計画や方法を工夫して考えること」です。

本単元では、「物が水に溶ける量には限度があること。」「物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。」「物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。」を分かることが大切です。観察、実験を通して、これらのことを理解させることが重要ですが、見通しをもたせるには、導入時に問題意識を高めるような実験を行うことが大切です。



そこで、単元の導入時に、左の図のような実験を行う時間を設定して、単元で学ぶことの概要を児童に体験させます。そうすることで、児童は問題を見出し、予想や仮説をもち、どんな観察、実験をしなくてはならないかを考えることになります。

よって、児童自らが、「今日の実験に必要な物は…」「この前の実験で分かったことを使うとあと何が分かれば…」という情報を主体的に集めながら、観察、実験に取り組めるようになります。

なお、いくつかのコーナーで自由に体験させる時には、安全面に留意することも大切です。

導入時に問題意識を高めるような実験を行うことで、児童の知的好奇心を高め、実験を行うに当たって必要な情報収集に主体的に取り組むことができます。

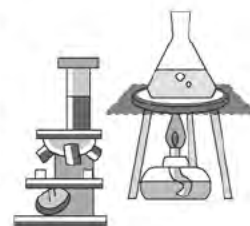
### (2) 独立達成、深い思考

#### ～学んだことや分かったことを児童自身の言葉で書かせましよう～〔第3次〕

ほとんどの児童が、観察、実験で得られた結果をノートに記録することはできません。しかし、考察を的確に書くことについては、多くの児童が苦手意識をもっていると考えられます。

結果とは、観察、実験を通して見られたものそのものです。グループで実験を行ったとき、同じ数値が各児童のノートに記録されます。現象・様子として結果ができれば、見方によって様々に見えるものもあるかもしれませんが、グループで話し合いをすることにより同じような結果が各児童のノートに記録されます。このように結果は同じですが、考察は児童によって異なってきます。

ところで、考察の書き方については、どのように指導しているのでしょうか。「〇〇から分かることを書くのだよ。」「自分の考えを書けばいいのだよ。」という指導をすることもありますが、例えば、「結果を比べてみて、分かったことを書いてみよう。」という投げかけをするのはどうでしょうか。こうした投げかけを受け、複数の結果を結びつける際に思考力を働かせることができます。つまり、深い思考につながるわけです。



このように、「予想→観察・実験→結果等」の一連の流れから導かれる「考察」等を、自分の言葉で書かせる活動（独立達成）をさせていきたいと思います。そして、複数の結果を関連付けて考えさせることにより、深い思考をさせていきたいと思います。



1	題材名	音の重なりと反復のおもしろさを感じ取ろう	
2	題材の目標	二つの旋律やリズムの重なりと反復のおもしろさに関心を持ち、互いに聴き合って表現したり、オーケストラの響きを味わって鑑賞したりすることができる。	
3	教材	「アルルの女」第2組曲から ファランドール（ビゼー作曲）、 パレードホッホー（高木あきこ作詞、平吉毅州作曲）、茶色の小びん（ヨセフウィナー作曲） (教育芸術社 4年)	
4	主な学習活動	(1) 題材の展開（全10時間）	
		学習活動	指導上の留意点
第1次 (2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>「パレードホッホー」の二つの旋律の特徴を生かして歌う。</li> <li>リズム遊びをする。2小節分の二つのリズムを用いてA→A→B→B→A+B→A+Bで演奏し、リズムの重なりを感じ取る。</li> <li>「パレードホッホー」の二つの旋律を重ねて歌う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの旋律の特徴を捉えさせ、どのように歌いたいかを話し合わせる。</li> <li>全体を2グループに分けて行う。</li> <li>交互に演奏させたり、重ねて演奏させたりすることで、歌唱の活動や第2次の鑑賞、創作の活動との関連を図る。</li> <li>互いの旋律を聴き合って歌唱するように促す。</li> </ul>
第2次 (4)		<ul style="list-style-type: none"> <li>「ファランドール」に合わせて行進したり、手を動かしたりするなど、体を使って表現する。</li> <li>「王の行進」と「馬のダンス」の曲想を比べて言葉で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの旋律の特徴を捉えた表現をしている児童に、その動きにした理由を尋ねる。</li> <li>リズムや音型、調に着目させる。</li> </ul>
本時		<ul style="list-style-type: none"> <li>「パレードホッホー」を歌いながら肩たたきをする。</li> <li>「王の行進」と「馬のダンス」の反復の仕方と、二つの旋律の重なりを聴き取る。</li> <li>各自が2小節のリズムをつくる。</li> <li>友達のリズムと合わせて「ファランドール」と似た構成のリズムの曲をつくる。</li> <li>リズムの曲を発表し合う。</li> <li>「ファランドール」を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時に左右交互に16拍、8拍、4拍、2拍、1拍ずつ肩たたきをしながら歌わせる。</li> <li>二つの旋律が交互に現れ、間隔が短くなることによる高揚感を感じ取らせる。</li> <li>即興的につくらせる。思いつかない児童には、言葉や擬態語をヒントにするよう助言する。</li> <li>違うリズムパターンの二人が組めるとよい。</li> <li>6～8人のグループ内で発表させる。</li> <li>本時はオーケストラの響きを味わって聴くように働きかける。</li> </ul>
第3次 (4)		<ul style="list-style-type: none"> <li>「茶色の小びん」の主旋律を演奏する。</li> <li>グループで四つの声部を分担してアンサンブルをする。</li> <li>コーダを付けて終わり方を工夫する。</li> <li>アンサンブルを発表し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主旋律奏は全員が取り組み、その他は、分担した声部を練習させる。</li> <li>音色と音量のバランスに気を付けさせる。</li> <li>どの部分を何回反復して終わりにするかを話し合わせる。</li> </ul>
		(2) 本時の学習（5/10時間）	
		① 各自が2小節のリズムをつくる。	
		二つのリズムで「ファランドール」風の曲をつくろう	
		② 「ファランドール」をヒントに、二人でつくる曲の構成を確かめる。 <b>知的好奇心</b>	
		(例) : A A A A → B B B B → A A → B B → A → B → (A + B) × 4 → コーダ	
		③ 各自がつくったリズムを受け持ち、交互奏、重奏の形で演奏する。 <b>おもしろさ・楽しさ</b> <b>高め合える</b>	
		二つのリズムの組み合わせや、ボディパーカッションの音色を工夫する。	
		④ 通せるようになったら、コーダの部分を考える。	
		⑤ 学習の振り返りをする。	

## 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント

## (1) 知的好奇心

～著名な作品の構成をヒントにすることで、音楽づくりへの期待感をもたせましょう～

〔第2次・本時〕

中学年の音楽づくりの活動では、音楽づくりのための発想をもち即興的に表現する能力、音を音楽に構成する能力を育てることが指導のねらいとなります。

本題材では、鑑賞曲「ファランドール」との関連を図った音楽づくりを行います。

楽曲の特徴をヒントに、音楽づくりをすることで関心を高められると考えられます。

本時における「音を音楽に構成する」活動とは、反復、変化などの音楽の仕組みを生かして、音楽の終わり方を意識して、まとまりのある音楽をつくるようにする活動です。導入では、各自が短いリズムを即興的につくって友達とつなげることにより曲がつけられるという期待感をもたせることが大切です。

## 「ファランドール」の特徴

- ・旋律A「王の行進」と旋律B「馬のダンス」が交互に現れる
- ・交互奏は加速しながら、間隔が短くなる
- ・二つの旋律が重なる部分がある
- ・華やかなコーダで終わる

## リズムの例



ねらいを達成させるためには、日々の音楽遊びの中でリズム模倣やリズムリレーなどを行っておくこと、学級全体で二つのリズムを重ねて遊ぶ体験をしておくことよいでしょう。

即興で表現することに苦手意識をもっている児童には、言葉や擬態語を唱えさせて、同じリズムでたたくせると、簡単にリズムをつくることができます。児童が即興的に表現することに慣れている場合には、各自がつくるリズムを4小節に延ばすことも考えられます。

歌劇「カルメン」の作曲者で知られるビゼーの作品「アルルの女から『ファランドール』」の構成をヒントにリズムアンサンブルをつくるという課題を与えることや、短いモチーフから曲ができるという活動への期待感が知的好奇心を高めると考えられます。

## (2) おもしろさ・楽しさ

～短いリズムをつなげることで、曲になるおもしろさを体験させましょう～〔第2次・本時〕

本時では、「ファランドール」の構成をヒントに、自分と友達がつくったリズムをつなげるペア活動が中心となります。

例：AAAA→BBBB→AA→BB→A→B→(A+B)×4→コーダ

既習の「パレードホッパー」なども参考にさせて、細かいリズムとゆったりとしたリズムを重ねると、おもしろさが生まれることなどに気付かせるとよいでしょう。手拍子を基本とした計画ですが、ボディパーカッションや打楽器を使い、音色を工夫することも考えられます。

ペア学習を基本とし、グループ学習に発展させることができます。一班を6人程度とし、音楽づくりはペアで行い、演奏の際には班で協力して行くと、演奏への安心感もてたり、演奏に迫力が増したりする利点があります。さらに、子どもたちの中から、「ペアを組み替えてやってみたい。」といったアイデアが出ることを期待したいものです。

指導に当たっては、個に応じた支援を適切に行い、自分のリズムができたという実感をもたせること、そして友達のリズムと組み合わせで「曲にすることができた」という成功体験を味わわせることが大切です。作品ができたことや協力できたことに対して十分に称賛するとともに、振り返りの活動で自他のよさに気付かせるとして、自信をもたせましょう。

次時（第6時）では、アンサンブルを発表した後に「ファランドール」を再び鑑賞することで、児童は一層、楽曲のよさやおもしろさを味わうことができるでしょう。

ペア、グループによる協同学習を通して、自分と友達の簡単なモチーフが楽曲らしくなるという成功体験が得られると、結果としておもしろさ・楽しさを実感することが期待できます。また、友達の表現を尊重しながら協力して一つの作品をつくることで、互いに高め合うようになり、学びに向かう集団づくりにもつながると考えられます。



- 1 単元名 式の計算
- 2 単元の目標
- ・文字を使った式の計算や、それらを活用して問題を解決することに関心を持ち、式の見方を深めようとする。
  - ・1年での学習内容から発展的に式の計算を考えたり、文字を使った式で数量および数量の関係を説明したりすることができる。
  - ・多項式の加法、減法などの計算ができるとともに、目的に応じて式を活用したり、等式を変形したりして式の意味を読みとることができる。
  - ・単項式や多項式などの意味を理解し、文字を使った式を用いて、数量および数量の関係を一般的に説明することの必要性和意味を実感する。

3 教材 身近なものを教材とし、身の回りにも数量の関係が隠れていることに気付かせるとともに、文字を用いて一般的に表現させることで、そのよさを実感させる教材（東京書籍 2年）

4 主な学習活動  
(1) 単元の展開（全16時間）

	学習活動	指導上の留意点
第1次 (1)	・数あてゲームを行い、結果があてられるわけを文字を使って考える。 <b>知的好奇心</b>	・数や式などの数学的な表現を使って理由を考えさせたい。
第2次 (8)	・単項式と多項式の意味を知る。 ・多項式の計算をする。 ・単項式の乗法と除法を計算する。 ・式の値を求める。 ・基本の問題を解く。 <b>おもしろさ・楽しさ</b>	・用語の意味を理解させる。 ・既習から、多項式の計算の仕方を類推させる。 ・視覚的な把握をしてから、計算の仕方を考えることへつなげていきたい。 ・直接式に代入するより、式を簡単にしてから代入することのよさを理解させたい。
第3次 (6)	・式による説明をする。（本時） ・等式の変形をする。 ・基本の問題を解く。	・具体的な場面で文字式を活用することを体験させて、文字式の活用の仕方に慣れさせたり、文字式の有用性に気付かせたりしたい。 ・具体的な場面で、数量の表す式を目的に応じて変形しておくことが便利であることに気付かせたい。
第4次 (1)	・前時までに学んだことを振り返り、まとめの問題を解く。	・わからない場合には、既習の学習事項を振り返り、確認させる。

(2) 本時の学習（12/16時間）

**【問題1】** カレンダーの  で囲まれた9つの数の和をすばやく求める方法を考えよう。

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

① 9つの数の和を簡単に求める方法を考える。**知的好奇心**

② 9つの数の和を簡単に求める方法を話し合う。**協同学習 深い思考 帰属意識**


③ 全体で話し合い、9つの数の和が（中央の数）×9で求められることをまとめる。**おもしろさ・楽しさ**

x-8	x-7	x-6
x-1	x	x+1
x+6	x+7	x+8

④ 各自カレンダーを使って類題を作成し、友達と出し合う。**自発学習**

**【問題2】** いろいろな形で数を囲み、囲んだ数の和を求める方法を文字を使って表しましょう。

⑤ 学習の振り返りをする。





## 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント

## (1) 知的好奇心

～ふしぎな数あてのしくみを考えることで、文字を使った式の学習への期待感をもたせましょう～

【第1次】

本単元では、第1次の導入時に、生徒が秘密にしている数を教師があてることで、生徒に「なぜ？」という驚きや疑問をもたせたり、感動させたりすることで生徒の課題意識を高めます。

また、本単元の学習を通して、数をあてることができる仕組みを文字を使ってとらえ、数学的に説明できるようになるという学習への期待感をもたせたり、見通しをもたせたりさせます。

単元のはじめに、生徒が身近に感じる魅力ある教材を提示し、これからの学習に対する期待感をもたせ、生徒の知的好奇心を高めます。

～カレンダーという身近なものを教材とし、身のまわりにも数量の関係が隠されていることに

気付かせましょう～【第3次・本時】

生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を高めるには、学習と実生活との関連を図ることが大切です。本時では、カレンダーという身近なものを教材とすることで、学習内容と実生活とのかかわりを実感させ、学ぶ意欲をはぐくむとともに、学習内容の確実な定着へとつながっていくことが期待できます。

「こんなところにも数学が…。」、といった身近な教材を取り上げることで、知的好奇心を高めます。

## (2) 協同学習、深い思考

～数量や数量の関係を文字を用いて表現し話し合う場を設定し、様々な考え方に気付かせましょう～

【第3次・本時】

本時の学習では、自分で解決方法を考えた上で話し合いをさせ、友達の様々な考え方に触れさせます。

生徒は、互いに学び合う中で、自分の考えを深めることができます。また、よりよく他に伝えるための表現力も育成されます。友達と学び合う中で、自分が一人の人間として大切にされ、頼りにされていることを実感し、存在感を味わうことができます。このことは、帰属意識の高い学級づくりにつながります。

協同学習を通して、自分とは違う新たな考えに気付いたり、友だちはなぜそのように考えたのだろうと、自分と比べたりすることで深い思考へとつながります。

## (3) おもしろさ・楽しさ

～数量や数量の関係を文字で表すよさを実感させましょう～【第2次】【第3次】

本単元では、少し複雑な文字を使った式の計算ができるようにして、文字を使って表現できる関係や法則の範囲を広げることができるようにします。また、文字を使った式が、事象を一般的に考察するための有効な方法の一つになることに気付かせましょう。そして、文字を使った式を活用して数学的に考えていくことのおもしろさやよさに触れさせ、これから数学を学習する上で数学的な推論を進めるきっかけにしていきます。

文字を使った式を用いて、一般的に説明することができるということを理解させることで、数学的なおもしろさ・楽しさを味わうことにつながります。

## (4) 自発学習

～数量の関係について、生徒同士で問題を作って出し合うなどの学習活動を設定しましょう～

【第3次・本時】

本時では、問題解決的な学習を取り入れ、その中で生徒主体の取組や活動場面を設定しています。例えば、各自が問題を作って互いに出し合う活動を行います。これにより、自ら問題を考え、解決していく能力が育成されます。生徒が作成した問題を解き合ったり、問題作りのコツや解いたときの感想を話し合ったりすることで、問題が作られているしくみを理解でき、自ら課題を見出し解決できるようになると考えられます。

こうした問題を作る活動を多く取り入れることにより、今後の授業において、自ら進んで学習に取り組む（自発学習）態度につながると考えられます。

- 1 題材名 家族の役に立つ小物入れを考えよう（製作品の設計）
- 2 題材の目標 収納する小物（使用目的）や使用する場所（使用条件）を明確にし、使用できる材料や製作時間から、使いやすさ及び丈夫さを比較・検討した上で、小物入れの寸法と木材の接合方法を決定することができる。
- 3 題材 家族の役に立つ小物入れを、家族からの要望やグループのメンバーの意見を聞きながら検討させることで、「技術や生活への関心・意欲・態度」と「工夫し創造する能力」を高めることを目指す題材である。

4 主な学習活動

題材の展開（全3時間）

	学習活動	指導上の留意点
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題を確認する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家族のために役に立つ小物入れを考えよう。</span></li> <li>・家庭生活を振り返り、家族の役に立つ小物入れの使用目的や使用条件について考える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">向社会的欲求</span></li> <li>・小物入れを使いやすくする機能と丈夫にする構造について考える。</li> <li>・各自が考えた小物入れがよりよいものになるように付箋を用いてグループ内で検討する。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協同学習</span></li> <li>・学習を振り返り、家族に提示する設計案をワークシートにまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">課題：小物入れの設計案を持ち帰り、次の点について家族から取材する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の有用性（役に立つかどうか）</li> <li>・作品に対する要望や期待など</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中から課題を見つけさせ、収納するものや使用場所について考えさせる。（ここでは、説明文や略図でよい。）</li> <li>・見本となる先輩の作品や、見た目優先で使いにくく強度が不足した例を示す。</li> <li>・気が付いたことを付箋にメモしながら発表を聞かせる。改善点についての意見は否定の表現を用いずに、「○○はどうすればいいか？」という疑問文で書かせ、建設的な話し合いをさせる。</li> <li>・グループ内で認められたよいアイデアは、校内特許申請用紙にまとめ提出させる。教師が認定したアイデアは校内特許として掲示し、クラスや学年で共有を図りアイデアの尊重や活用と創造を促すようにさせる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報収集</span></li> </ul>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題を確認する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">寄せられた要望をもとに設計案を修正しよう。</span></li> <li>・家族からの要望等をもとに、小物入れの設計案を修正し、具体的な構想図をかく。</li> <li>・グループ内での発表や意見交換を通して、班員からの意見や校内特許を参考にしながら、これまで考えてきた案を比較・検討し、製作する小物入れを決定する。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協同学習</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考の経過が分かるように、修正した箇所等を記入する欄を設け、記録させる。</li> <li>・様々な要望や改良のための視点があることに気付かせることや、校内特許を活用させることにより、技術を評価・活用する能力や態度を身に付けさせる。</li> </ul>
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題を確認する <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小物入れの形状や寸法を決定しよう。</span></li> <li>・収納する小物の寸法や材料の寸法から、作品全体の寸法や形状を考えながら、木取り第1案をかく。</li> <li>・材料の余りを出さないことや部品点数等の制約条件も考えて、第2案～第3案をかく。</li> <li>・小物入れの形状と寸法を決定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木取り第1案がかけたら、教師に見せるように指示し、教師が個別に指導する。</li> <li>・制約条件は、生徒の学習状況によって、段階的に示すようにする。<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">挑戦行動</span></li> <li>・部品の接合方法も確認させる。</li> </ul>



## 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント

## (1) 向社会的欲求、充実感、有能感

～家族のために、家族の役に立つ小物入れを考えさせましょう～〔第1時、事後〕

昨今の中学生は、あまり不便を感じずに生活してきており、工夫やものづくりによって生活を改善した経験も少ないのが現状です。その中学生には、自分の生活を改善するための自分専用の収納製品を考えさせることで製作の意欲は増しますが、家族などの所属する集団や他者のためのものづくりに取り組ませることは、社会や集団の一員として持続可能社会の構築に貢献しようとする態度や、教科のねらいである「技術や生活への関心・意欲・態度」を高めるなど、様々な教育的な効果が期待できます。

家族への取材から得た要望や期待に応える小物入れを考えさせることは、生徒が「自分も家族の一員として役に立ちたい」と感じる**向社会的欲求**を高めることにつながります。

本題材で考えた作品を製作した後、自己評価によって学習を振り返るほかに、家族からの評価（感謝の言葉）を書いてもらうことで、生徒自身の「家族の役に立った」「なかなか自分もやるなあ」といった**充実感**や**有能感**を高めることが大いに期待できます。



## (2) 情報収集

～アイデアを尊重し共有することで、より良いアイデアを考えさせましょう～〔第1時～〕

生徒が考えた優れたアイデアは、教師が「校内特許」として認定し、教室内に掲示し共有します。これを参考にさせることで、より良いアイデアを生み出そうとする意欲や態度を高めることにつながります。アイデアが浮かばない生徒も、「校内特許」を参考にできるので、安心して学習に取り組むことができます。

優れたアイデアをクラスや学年で共有する「校内特許」の活用によって「使いやすくなるための参考となるアイデアはないか」、「これよりもっと丈夫な作品にしよう」など、生徒が主体的に**情報収集**を行うことにつながり、学習がより探究的になっていきます。



## (3) 協同学習

～家族への取材やグループ内での意見交換を通して、改善点を考えさせましょう～〔第1～2時〕

図や表をかくことによって考えを整理させたり、先輩の作品の良さや工夫点の見取りを記録させたりすることは、教科特有の「言語活動」であり、主に「工夫し創造する能力」を育成する指導において活用されます。その中でも、「話し合い活動」により学習効果を高めるためには、「話し合いの方法やきまり」について事前に指導しておくことや、話し合う際の台本の例をワークシートに掲載するなどの準備と工夫が大切になります。

本題材では、家族からの要望を聞く「取材活動」や、グループの中で自分のアイデアを発表したり、グループのメンバーのアイデアを聞いたりする「話し合い活動」等の**協同学習**を行うことが、自分の作品（アイデア）をより良く改善していこうとする意欲を高め、工夫し創造する能力の育成につながります。

また、**協同学習**を行う上で、友達の良い考えや長所に気付けるように教師がサポートすることは、困ったときには相談したり、手伝い等を頼んだりしやすい**安心して学べる環境**づくりにつながります。

## (4) 挑戦行動

～制約条件を生徒の実態に応じて与え、少し難しい課題に挑戦させましょう～〔第3時〕

家族の立場になって、生活に役立つ製品を考えさせることは、やや難易度の高い学習課題です。更に、「使用する材料の余りは、まったく出さない（できるだけ出さない、1/3くらいまで…）」や、生徒の学習状況や技能等の実態に応じて、「製作時間の関係で、部品数は7（6、5…）個まで」など、制約条件を段階的に示すことで、難易度を調整しながら課題に挑戦させることができます。



家族の要望を作品に生かすことや作品製作上の制約条件等を段階的に示すことで、生徒は「それならできそうだ。」という見通しをもち、「もっと使いやすくしよう。」などの少し難しい課題にも**挑戦行動**につながります。





1 単元名 Let's Read 2「Roy Brown - Boy Detective」		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読んで、そのあらすじや内容の大切な部分を正確に読み取る。</li> <li>・物語の内容が聞き手に伝わるように登場人物の心情などに応じた適切な音読をする。</li> </ul>		
3 教材 文章としてある程度の長さを持ち、まとまった内容を伝えようとする読解教材である。音読やロールプレイなどを通して大意を捉えさせるとともに、物語の読みを深めさせる。（東京書籍 3年）		
4 主な学習活動		
単元の展開（全6時間）		
	<b>学習活動</b>	<b>指導上の留意点</b>
第1次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読み、話のあらすじをおさえる。</li> <li>・物語を読み、各自の感想を伝え合う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">協同学習 高め合える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と十分なインタラクションを行いながら物語を導入する。知的好奇心</li> <li>・文章全体ではどのようなことが書かれているのか意識させて読み始めさせる。</li> <li>・初見でわかった内容や疑問点についてペアやグループで話し合わせ、次時からの読み取りへの意欲を更に喚起させる。</li> </ul>
第2次 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートを読み、内容を理解する。深い思考</li> <li>・登場人物の気持ちや物語全体の流れを考えながら音読する。</li> <li>・ロイ、タイロン、ブラウン署長、クレイン氏、ホルト氏等、登場人物になってロールプレイングを行う。協同学習 高め合える</li> <li>・物語の続きを考えて発表する。深い思考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文から読み取る発問と本文を手がかりとして考える発問の両方をワークシートに盛り込む。</li> <li>・音読の際に、新出語や発音が難しい語については、十分に練習を行う。読めない語については、個別に支援する。</li> <li>・ロールプレイングをする際に、教科書の表現と少し違ったり、単語だけになったりしてもよいことを伝える。</li> <li>・活動の様子を見ながら、ペアやグループでの取組に対して支援する。</li> <li>・外国語活動でロールプレイングを行った生徒には、その時の経験を思い出させながら取り組ませる。</li> <li>・様々な意見を認め合う雰囲気づくりを行う。そのように考えた理由は何なのかを意識させながら発表させる。</li> </ul>
第3次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに学んだことを振り返る。</li> <li>・教科書以外の英文を読み、物語の概要や物語に対しての感想や意見等を互いに伝え合う。</li> <li>・学習の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の大筋を捉え直しながら、前時までの学習を振り返らせる。</li> <li>・生徒の実態に合わせたワークシートを準備し、英文を読んだり感想等を伝え合ったりする際に活用させる。</li> <li>・ワークシートには、必ず全員答えてほしい発問と、できればチャレンジしてほしい発問の両方を用意する。</li> </ul>

## 5 学ぶ意欲の構成要素への働きかけのポイント

### (1) 知的好奇心

～英文を読み始める際、生徒とのインタラクションを通して活動意欲を高めましょう～

物語等のまとまりのある英文を読む際、教師からの一方的な口頭での導入だけではなく、生徒とのインタラクションを通じた導入を行うことが大切です。右のような教師とのやりとりをきっかけとして、生徒が「どんなことが書かれているのだろう」、「早く読んで知りたいな」と思うような学ぶ意欲につながるやりとりをします。

また、その発問を受けて、一文一文を区切って理解するのではなく、文章全体ではどのようなことが書かれているのかを生徒が主体的に読もうとすることにもつながります。



〔第1次〕

英文を読み始めさせる前に大切なことは、本文の内容で書かれている事実に触れるのではなく、事実は読み進める中で生徒が徐々に理解するものとし、インタラクションを通して生徒が思わず読みたいと思うような知的好奇心をくすぐるきっかけづくりを行うことです。



### (2) 深い思考

～物語に関連する発問を通して生徒の読みを深めさせましょう～〔第2次〕

書かれている内容から答えを推測させるような発問をすることで、生徒は本文を繰り返し主体的に読むようになります。例えば、「犯行現場からタイロンの家まではどのくらいの距離があるでしょう。」、「ロイは、父にどんな計画を話したのでしょうか。」等の発問から、生徒が物語の細部と全体を必然的に読むことにつながります。

また、生徒に自由な発想で物語の続きを考えさせて発表させたり、自分がもし登場人物の誰かであったらどのような行動をとるか等を、自身の体験や知識などに照らして書かせたりします。こうした活動をすることで、文章全体の内容を考え、深く読むことにつながります。



物語の指導では、まず大まかな流れや書かれていることを読み取らせることが大切です。しかし、時には、書かれている内容を理解させるだけでなく、本文の内容を基に想像を膨らませながら読み取らせることも必要です。このことを理由も含めて表現させることで深い思考につながります。

### (3) 協同学習

～学習活動に合わせペア学習やグループ学習を効果的に取り入れましょう～〔第1次～2次〕

第1次では、物語のあらすじを捉えさせるときペアで話し合う時間を確保します。ペアで確認を行う際には、個で考える時間を確保します。その際、例えば主人公ロイが各場面で事件とどのようなかかわりがあるか等、考えていく上での視点を与えます。互いの意見交換を通して物語への理解を深めさせます。また、第2次での音読の場面では、個でしっかりと練習を行い、ペアで読み合う活動が考えられます。順番に英文を読み合うことで、互いに助け合う姿も期待できます。最後にグループで役割を分担して読む活動を行います。事前にペアやグループごとに全体で発表することを予告することで、聞き手がいるという相手意識をもって活動に取り組むことにつながります。

ペアやグループ等での学び合いや教え合いによる協同学習を通して、授業のねらいである指導内容の理解や習得につながります。また、一緒に活動する中で、自分の役割を果たしたり、助け合ったりすることで、互いの存在を認め合い高め合えることができ、よりよい関係や望ましい集団を形成することにもつながります。





### ここに注目！③

#### 振り返る活動

児童生徒自身による振り返り（自己評価）では、授業の冒頭に目標をもたせること、学習状況を授業の最後に振り返らせることの大切さが、広く知られています。教師によるよい面への評価に加えて振り返りをさせることは、「有能感」を育てることにつながります。

また、この振り返りと、授業の冒頭に目標（めあて・ねらい）を示す活動を積極的に行った学校ほど、全国学力・学習状況調査の国語B（活用）の記述式問題の平均正答率が高い傾向があることが示されました。（「平成 25 年度全国学力・学習状況調査 クロス集計報告書」平成 25 年 12 月 国立教育政策研究所）

一方、上記の調査から、「学校が上記の活動を行っていると考えていても、そのように受け取っていない児童生徒が一定割合存在し、特に中学校ではその割合が大きい」ことも分かりました。近年、「本時のねらい」の提示は定着してきていますが、一部では、目標の提示や振り返る活動を行っていることが児童生徒に伝わっていないことがうかがえます。今後は、目標を明確に提示すること、自己評価を工夫して実施することに、より一層努めていくことが大切です。



### ここに注目！④

#### 授業中で行う「学びに向かう集団づくり」(2)

児童生徒の学ぶ意欲を高める上で重要なポイントが、安心して学べる環境をつくることです。調査研究「学ぶ意欲をはぐくむ」では、安心して学べる環境づくりを進めていく上での四つのポイントを示しました。

##### 安心して学べる環境づくりのポイント（人的環境）

- 1 子どもの視点に立ち、子どもを肯定的にみる
- 2 子どもの意思を尊重し、自発性を育てる
- 3 意図的に働きかけて、一人一人の子どもを生かす
- 4 学び続ける姿を通して、学ぶ意義を伝える

これらのポイントを意識した取組は、大部分が授業中で行う取組と言えます。

例えば、ポイント1の取組です。教師が児童生徒の発言等を肯定的・受容的に受け止めることにより、教師への信頼感が高まります。すると、心が落ち着き学級での居心地がよくなります。

また、ポイント3で示すように、授業中の学び合いの場で、教師が意図的に一人一人の子どもを生かす働きかけをすることにより、集団の中で個性を発揮したり活動が活性化したりします。

このように、授業で行う安心して学べる環境づくりは、帰属意識の高い学級や互いに高め合える集団をつくることになり、学びに向かう集団づくりに結びつくと考えられます。



## 第3章

# 調査協力校の実践

---

調査協力校2校の1年間の取組について紹介します。



### 取組のポイント

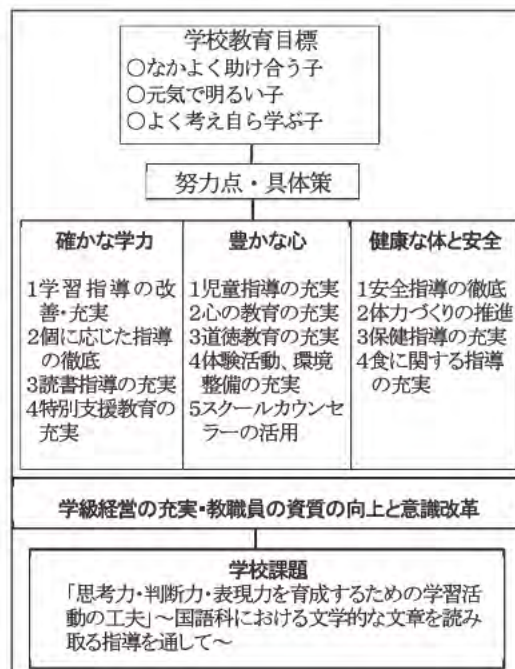
- 国語科を中心として学校課題「思考力・判断力・表現力を育成するための学習活動の工夫」に取り組んでいるが、他教科においても「考えさせる」授業の工夫をしている。この取組は学ぶ意欲の向上にもつながっている。
- 個人で考えさせてから、実態や授業のねらいに応じて、ペア、グループ、全体での学び合いを充実させることで、思考の深まりや互いに高め合える学級づくりを目指している。
- 教師が児童をほめたり、児童同士が学年を越えて認め合ったりする「かがやきカード」、「3Sカード」を全校で活用するなどして、充実感や有能感、自己有用感の育成に努めている。

### 学業指導に関わるこれまでの取組

#### 学びに向かう集団づくり

学校教育目標「なかよく助け合う子 元気で明るい子 よく考え自ら学ぶ子」の実現に向けて、三つのブロック「確かな学力」「豊かな心」「健康な体と安全」の努力点を掲げている。その基盤に「学級経営の充実」「教職員の資質の向上と意識改革」を据えている。これまでも、教職員が高い人権意識をもち、一人一人の児童を大切に、互いのよさを認め合える集団づくりに努めてきた。

その具体策の一つとして「かがやきカード」や「3Sカード」の活用がある。「かがやきカード」は、児童から児童へ、教師から児童へ、メッセージを書いて贈るカードである。このカードを用いることで、親切な行為に感謝し、よさや成長、努力を認め合うことができる。



#### 子どもが意欲的に取り組む授業づくり

〔平成25年度 学校経営重点化構想と評価〕の一部抜粋

本校では、学力向上のためには、学ぶ意欲をはぐくむことが大切であると考え、平成23年度から学ぶ意欲が測定できる「学習に関するアンケート」を、年間2回ずつ実施してきた。そして、その結果を学習指導主任が各担任に戻して、実態把握に役立ててきた。

平成24年度の研究主題は『「正しく読み取ることができる子ども」の育成～国語科における説明的な文章を読み取る学び方の指導について～』とし、国語科の授業を中心に、基礎・基本の定着、知識・技能の習得に努めてきた。平成25年2月に実施した国語の学力診断テストでは、全学年が全国平均を上回っていた。教師も手応えを感じていたが、「自分の意見や思ったことを書くこと」「理由付けをすること」「個々の情報を関連付けて読み取ること」などに課題があることが分かった。そこで、基礎・基本の力を身に付けさせながら、自ら思考・判断・表現できる力を育成する必要性を教職員が認識し、平成25年度の研究主題を『「思考力・判断力・表現力を育成するための学習活動の工夫」～国語科における文学的な文章を読み取る指導を通して～』として取り組んだ。



## 研究の実践

## 1 学ぶ意欲に関する校内研修

R

P

## (1) これまでの取組から

6月に教員用の「集団や授業づくりに関するアンケート」(p66 参照)を実施した。本アンケートは学業指導のチェック項目を使って、これまでにやってきた指導を振り返ることを目指したものである。総合教育センターで実施した2～5年目研修(5年目)、10年目研修受講者の平均(小学校)より上回った項目は次のとおりであった。

- ・一人一人の実態に応じて、授業の指導計画を工夫している
- ・授業の中で児童生徒が自ら選択できるように、多様な学習方法を用意している
- ・自己評価、他者評価を生かした授業を実践している
- ・実態調査、教育相談などをとおして、学習不適應の把握に努めている
- ・学習不適應の解決に、教職員が協力して取り組んでいる

この結果から、個に応じた指導、評価を生かした指導の充実を図り、自発的な学習につながる学習方法を工夫し、教職員が協働体制で学業指導に当たっていることが分かった。そこで、これらのよさを生かしながら、児童がさらに意欲的に取り組む授業づくりについて研究するために校内研修を実施した。

## (2) 研修の流れ

7月30日の校内研修では、学ぶ意欲を測る\*「学習に関するアンケート」(p68 参照)の校内全体の結果や学年・学級の結果を配布してデータを共有した。初めに、学ぶ意欲が育つプロセスや構成要素などの説明を聞いた。次に三つのグループに分かれて二つのワークショップを行った。グループは、低・中・高学年のブロックを基本に、全教職員によって構成した。

\*本アンケートは、3学年以上の児童が実施した。

## ① ワークショップ1

学ぶ意欲をはぐくむための働きかけについて、日頃、授業で実践していることを中心に付箋に書き、情報を共有し合った。

## ② ワークショップ2

右のようなワークシートを活用して、教職員それぞれが学級のアンケートの分析を行った。データを参考にして目標と目標を達成するための手立てを考えた。手立てはワークショップ1の働きかけのアイデアを参考にした。その後、学年ブロックで目標と手立てを共有した。アンケートを実施していない低学年ブロックでは、教職員の観察を基に現状を丁寧に話し合い、目標や目標達成のための手立てを共有した。



【ワークショップ1の様子】

◆ワークショップ2「学ぶ意欲をはぐくむための目標設定」  
・重点目標と目標を実現するための手立てを考える

「学習に関するアンケート」の分析と目標の設定

○学年(学級)の強みと弱み  
—アンケートの結果から読み取れること(※低学年は日頃の観察から)—

[強み]	[弱み]
------	------

○重点目標  
—アンケートの結果や観察による実態、学校課題などから—

○目標を達成するための手立て  
—ワークショップ1の協議を参考にして—

【ワークショップ2のワークシート】



### (3) 現状と取組の方向性

ワークショップ2で協議したことのうち、重点目標と主に働きかける構成要素と手立ての例を下表に示した。

学年	重点目標/主に働きかける構成要素	手立ての例
1	体験活動を通してチャレンジしながら学ぶ。 <b>/挑戦行動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を通して経験値を高める。</li> <li>・1、2年生合同学習で、1年生は2年生から学ばせる。</li> </ul>
2	じっくり考える習慣を身に付けさせる。 <b>/挑戦行動、協同学習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生合同学習で、2年生はリーダーシップを発揮させる。</li> <li>・話し合い活動を設定し、互いのよいところを認め合い学び合えるようにする。</li> </ul>
3	協同学習を充実させ、互いの考えを聴き合い認め合うことで、有能感を高めていく。 <b>/協同学習、有能感</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア、グループ学習を充実させる。</li> <li>・友達の考えと自分の考えとを比べる場を設定する。</li> <li>・できたこと、やり遂げたことを称賛する。</li> </ul>
4	動機付けを工夫し、自己評価を充実させる。 <b>/自発学習、有能感</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入でのICT教材の活用、よい作品の提示により、「できそうだ」というイメージをもたせる。</li> <li>・記録や結果が分かるものを示し、達成感を味わわせる。</li> <li>・学んだことを誰かに伝える場を設定して、内発的動機を高める。</li> </ul>
5	一人一人が目標や自信をもって学習を進められるようにする。 <b>/挑戦行動、自発学習、有能感</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に結びつく課題や、さらに挑戦できる課題を与える。</li> <li>・具体物を用いる活動やゲームを取り入れる。</li> <li>・自主学習を活用して学習意欲を高める。</li> <li>・個人差を把握し、個に応じた指導をする。</li> </ul>
6	一人一人が目標や自信をもって学習を進められるようにする。 <b>/自発学習、有能感</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標を明確にし、個人の目標をもたせる。</li> <li>・得意分野で活躍させる。</li> <li>・失敗の中の努力を認める。</li> <li>・「3Sカード」「かがやきカード」を通して互いに認め合わせる。</li> <li>・基礎的な学力を身に付けさせる。</li> </ul>

### (4) 教師の振り返り

二つのワークショップを終えた教職員の感想には次のようなものがあった。同僚の取組やアンケートの結果から、自身の授業や指導法を振り返っていた。

- ・今日の研修で、普段の教育活動を振り返ることができました。自分のちょっとした働きかけが子どもたちの学びに大きな影響を及ぼしているということが分かりました。
- ・学ぶ意欲のプロセスモデルにより、教師の働きかけが、どの構成要素に働きかける取組なのかを考えることができました。また、多様な取組を共有することができました。
- ・自分としては、子どもに今のレベルで満足してほしくない、もっと引き上げたいと思っていますが、その反面、子どものよさを認めることが少なかつたと思います。
- ・重点目標を立てたので、ぜひ、2学期は気持ちを新たに取組んでいきたいと思っています。

夏季休業中ということで、学期中よりもゆとりをもって研修に取り組むことができたようです。日頃、各自が工夫して行っていることが共有されたこと、子どもの姿とデータを照らし合わせて、重点目標や達成のための手立てを話し合うことができ教職員の意欲がさらに高まったことが、成果です。また、主に授業以外の場面で児童と関わる養護教諭や栄養教諭などの見方や専門分野を生かした働きかけなどを聞くことができたことも、研修の深まりにつながりました。

## 2 授業実践と授業研究会

D

C

## 自分の考えを再構成する場の設定による思考力の育成

## ■ 第4学年 国語「ごんぎつね」の授業

単元の前半では場面ごとの読み取りを行い、単元の後半である本時では、「ごん」と「兵十」の気持ちが通じ合えたか否かについて考え、その理由を自分の言葉で書いて発表し合った。一人で考えたことを、友達と意見交換を行い、再度考えて学びを深める実践である。

## (1) 主体的に考えるための学習課題を提示する【知的好奇心】

本時のねらいは「『ごん』と『兵十』の気持ちは通じ合えたのだろうか」であった。児童は物語の様々な場面でこれまでに読み取ったことを基に、「通じ合えた」のか「通じ合えない」のかを考えた。本学級は、立場を明確にして話し合うことには慣れており、興味をもって取り組みやすい学習スタイルである。児童は「通じ合えた」あるいは「通じ合えない」の立場を明確にし、その理由をこれまでの場面読みの学習を生かしてまとめていた。



【ワークシートを読み合う様子】

## (2) 自分の考えを言える雰囲気をつくる【安心して学べる環境】

みんなで考えていく上では、どんな考えも役に立つということを教師が日頃から伝えており、児童は自分の考えを積極的に発言していた。自分とは反対の意見が出て、一旦受け止める雰囲気が作られており友達の発言をよく聴いていた。

## (3) 自分の考えを再構成する【協同学習、深い思考】

二人の気持ちが通じ合えたかどうかとその理由を発表し合った。どちらの立場かを明確にしているが、理由を聞くと迷いのある児童もいた。話し合いの後、再び個人で考える時間を取った。「通じ合えない」としていた児童の中には、「通じ合えた」と考えを変え、その理由を記述している姿も見られた。

「通じ合えない」  
・兵十のお母さんが死んだ後、毎日、つぐないをしたけれど、うたれちゃったから。  
↓  
「通じ合えた」  
・人は一回いやなことをされるとうらみもちます。でも、最後にあやまった文(「ごん、おまいだったのか。')があったので通じ合えたと思います。

【話し合いにより考えに変化が見られた例】

## ■ 授業研究会

学年ブロックの三つの班に分かれて、付箋を使って協議が行われ、以下のような意見が出された。

- ・壁面の挿絵を見ながら、前時までの学習を振り返ったことは有効であった。
- ・子どもたちは、いろいろな意見を聴き合って互いに気づきがあったようだ。
- ・子どもたちは理由も述べていたので、その理由を整理しながら深めていくとよかった。
- ・「ごんと兵十は心の中で会話している」など、子どもから出た発言を取り上げて叙述に戻って深めたかった。

話し合いの活動では、理由の異同について気付かせることにより、学びの深まりが期待できます。対立する意見であっても、自分の意見を聞いてもらえると感じて、意見が堂々と言える雰囲気を作ることが大切です。友達の意見を尊重することは、互いに高め合える学級づくりにもつながります。



■ 第2学年 国語「スイミー」の授業

本実践では、指導案検討会で協議した結果、これまで行ってきたような場面を追って読み取る単元計画ではなく、最初に大きなテーマを与えて、テーマに向かって読む計画で指導することにした。本時の学習課題は「スイミーはどんな魚か、家の人にしょうかい文を書こう」である。この課題は単元の初めにも伝えておいた。テーマを与え目的に合った読み取りを行うことにより、児童が思考し主体的に読むことをねらった授業である。

(1) 教師の受容的な姿勢で、自ら学ぼうとする意欲をもたせる【安心して学べる環境】

導入部分で、前時までの読み取りを生かして「スイミーって、〇〇〇」を決める際に、ほとんどの児童が一つに決めることができ、紹介文に何を書くかの見通しが立てられた。

しかし、「どうしても一つに決められない。」と繰り返す児童に教師は「二つにしてもいいよ。」と許容したことで、この児童は最後まで主体的に学ぶことができた。

また、個人で紹介文を書く活動に入ってすぐ、困っているAさんのそばへ行き、問答しうなずきながら「今、話したことを書けば、いい紹介文が書けそうだよ。」と励ますと、児童は一気に書き始めた。「できそうだ」という気持ちももてたようだった。



【自分の考えに名票を貼る子どもたち】

(2) 友達の考えを参考にして、自分の考えを広げる【協同学習、深い思考】

同じ「スイミーは〇〇〇」を選んだ児童同士で集まり、紹介文を読み合った。紹介が終わったグループから自然に手直しが始まった。友達の文を参考にして直す児童、発表したことで新たなアイデアが浮かんで書く児童などの姿が見られた。グループで聴き合うことで自分の考えを広げたり整理したりすることができた。書いて伝え合う言語活動を通して、読む力の深まりにもつながっていた。

(3) 振り返りで、参考になった友達の意見を紹介する【有能感】

教師が何度か支援していたAさんが、Bさんとの学び合いをきっかけに、紹介文を仕上げることができた。振り返りの場面で、Aさんがこのことを発言した。教師が両者を称賛すると、二人の笑顔が見られた。二人とも成功体験をすることができ、有能感の高まりにつながったと考えられる。

【児童の振り返りカードの記述】

Bさんが「あきらめないスイミー」っておしえてくれました。やさしくおしえてくれてうれしい。

きれいに書けるようにがんばりました。Aさんにおしえてあげたら「ありがとう」と言ってくれてうれしい。家の人にもおしえたい。



Aさん



Bさん

■ 授業研究会

三つの班に分かれて活発に話し合いが行われ、以下のようなことが話題の中心となった。

- ・単元を通してテーマに沿った読みに取り組ませたことで、子どもが思考する姿が見られたので、挑戦させてよかった。
- ・友達の話をよく聴き、学び合っていることがすばらしい。
- ・家族に向けて、話し言葉で書かせると、もっと書きやすかったのではないかな。

本事例のように、低学年であってもその学年に応じたペア、グループ学習ができるように指導することが大切です。日々の授業で同じところ、似ているところ、違うところなどに気付かせる指導をしておく、友達同士で交流した際にも、同様の観点で相手の意見を聞くことができるようになります。

また、協同学習を通して、聴き合うことのよさを実感させることにより、互いに高め合える学級づくりにもつながると考えられます。



## 課題解決学習の充実による自ら学ぶ力の育成

## ■ 第6学年 社会「戦争は人々の暮らしをどう変えたの」の授業

第6学年は、社会や理科を中心に右表に示したような流れで課題解決学習を行っている。個人による学習を多く設定し、グループや全体で発表し合い、最後に個人に戻している。この単元の流れを繰り返すうちに、「調べる」「まとめる」部分を家庭でも行い、家族とも学習内容について話し合う児童が増えてきた。

単元の流れの例(総時間8)

- ①学習のねらいの提示、学習問題づくり(1)
- ②一人で調べる(3)
- ③調べたことを簡潔にまとめる(1)
- ④自分の考えを文章でまとめる(1)
- ⑤全体で事実関係を確認し話し合い、自分の考えを更新する(2)

## (1) 調べる段階では情報の質や必要性を問わない【情報収集】

1時間目にした複数の学習問題について、分担して調べた。教師は、「調べる」段階では課題解決に関係がありそうだと思う情報を数多く集め、内容の吟味はしなくてもよいことを児童に伝えていた。このことで、調べることにに対する抵抗感が薄れ、児童は主体的に情報収集に取り組むことができたようになった。

## (2) まとめる段階では情報を選択させて、関連を考えさせる【情報収集、独立達成】

自分の集めた情報の中から、課題解決のために必要な情報を精選させることが大切である。児童は必要な情報を選び、関連を考えて図示するなどして情報を整理して簡潔にまとめることができた。



〔事実をまとめたノート〕の例

## (3) 各自が考えをもって一斉学習に臨み、自分の考えを深める【深い思考】

調べたことを基にして、自分の考えを文章にまとめる時間を確保している。教師は、「自分で考えて書いたことには間違いはない。」ということ伝えていた。資料を基にまとめた部分について全体で伝え合い、必要に応じて修正し共有する。これらの一斉での学習を踏まえた自分の考えを朱で加筆する。このような活動を通して、新たな視点が加わり考えが深まる児童の姿も見られた。

## 〔授業で分かったこと、感想〕より

- ・日本が強い国をつくりたいという気持ちは分かるけど、きちんと相手のことを考えられるといいと思う。自分と相手を守ってあげられるのが本当の強い国だと思いました。
- ・国と国が仲間になったり敵になったりして、互いが信じられるのかと思いました。今では、戦争をした国とも輸出入もできていてすごいと思います。



課題解決学習に取り組むことにより、資料を基に事実をまとめたり、自分の考えを書いたりするなど、一人で取り組んだ成果を実感できるため、充実感や有能感の高まりが期待できます。資料を基にまとめる活動としては、ポスターや新聞作りなどが考えられます。教師は、学習の過程で児童が興味をもち、主体的に取り組むための働きかけを工夫する必要があります。



## 発想の尊重を通じた自発性の育成

### ■ 第5学年 算数「単位量あたりの大きさ」

算数では学習への関心を高めるために、実生活に結びついた類題を出すように工夫している。「単位量あたりの大きさ」では、児童の歩幅を使って長い距離を求めさせた。

#### (1) 児童の発想を尊重し、思考させる【自発学習】

児童の歩幅で5歩の平均の長さを測り、校舎の長さを計算するという授業である。教師が初めに「なるべく正確に測定するために、普通の歩き方で歩いた歩幅を測定してください」と説明した。しかし、「自分の最大の歩幅で測った方が正確であろう」と考えた児童が、大股で測り始めた。このような場合、大人の経験から判断して、長い距離を測定すると、最大限の大股を保持することは難しいので、普通の歩き方で測るように指示することが多い。教師は児童の考えを尊重して見守った。すると、大股で測定していた児童はだんだん歩幅が狭まってしまい正確に測定できなかった。児童は実際に取り組むことで、長い距離を測るには、普通の歩き方による測定の方が正確であることを理解した。

関心・意欲・態度をねらいとした授業では、効率的な学びをねらうのではなく、児童の発想を尊重して、進んで取り組もうとする態度を育むことも大切です。

## 教科横断的な活動を通じた思考力の育成

### ■ 第2学年 国語「分かりやすくせつめいしよう～おもちゃの作り方～」と図画工作「ちきゅうからのおくりもので」の授業

本学級の担任は自分で考える力を身に付けさせたいと願い、日常的に児童に考えさせるための言葉かけをするようにしている。本実践では、国語で学んだことを生かして自分で作った図工作品の説明書を作り、友達と読み合う活動を設定した。

#### (1) 活動のおもしろさで、苦手意識を克服してやり遂げさせる【独立達成】

自分が作った作品を友達に分かりやすく説明するという目的意識をもたせることで、書くことに対して苦手意識をもっている児童でも、楽しみながら活動することができていた。実際に自分で作りながらメモをとることによって、順序立てて作り方の説明ができ、作り方のこつや留意点も加えて書くことできた。



【児童が書いた説明書】

#### (2) 完成した説明書を読み合うことで、学ぶ楽しさを味わわせる【おもしろさ・楽しさ、充実感】

完成した説明書をお互いに読み合った。国語で学んだ「上手な説明のこつ」が使われていることによって、作り方が分かりやすくなることに気付くことができた。また、友達が書いた作り方のこつや工夫の仕方などの表現から、互いに学び合うことができた。

実際に作り方を友達に説明する活動が、創作や思考への意欲を高めると考えられます。また、少し時間をかけたまとまりのある学習を設定することによって、やり遂げた充実感を得ることが期待できます。



カードを活用した振り返りや、よさの称賛による充実感・有能感の獲得

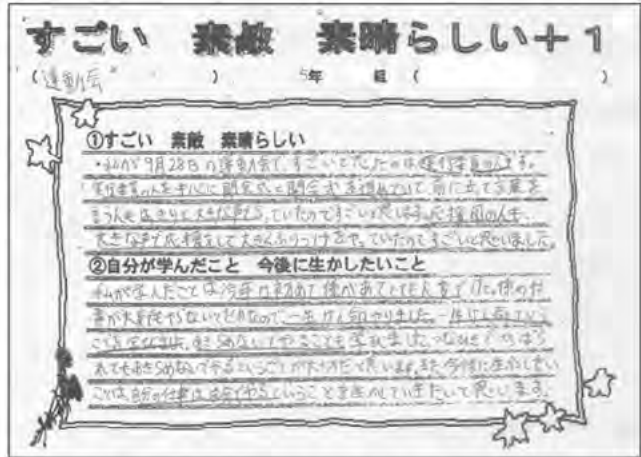
■ 全校生 日常的な活動

本校では、「3Sカード『すごい 素敵 素晴らしい+1』」を用いて行事の振り返りを行い、「かがやきカード」を用いて互いのよさを認め合っている。

(1) 行事における活躍を振り返る【 充実感、有能感 】

行事を終えると、「3Sカード」に自他の頑張りと感動したことなどを書く。

「すごい 素敵 素晴らしい+1」の「+1」については、「自分が学んだこと 今後に生かしたいこと」としてなりたい自分の姿や今後の抱負などを書いている。カードに書いたことは、各学年の代表児童が校内放送で朗読し、児童の関心を高めるようにしている。運動会の振り返りでは、6年生の活躍へのあこがれの気持ちや6年生への感謝の言葉を、多くの他学年児童が書いていた。このように運動会など行事によっては学年を越えた認め合いも行われている。



【5年生が運動会での6年生のすばらしさを書いた3Sカード】

(2) 「かがやきカード」で日常的に認め合う【 有能感 】

「かがやきカード」は、頑張っていたこと親切にしてもらったことなどについて、メッセージを書いて渡すカードである。このカードは2色あり、ピンク色は児童から児童へ、黄色は教職員から児童へのカードとしている。

**【児童から児童へ】**  
 日常生活に加えて、授業における友達のよさや励ましを伝える相互評価として使用することもある。

**【教職員から児童へ】**  
 学級担任に限らず、授業、清掃、委員会、クラブ活動、行事、日常生活などを通して、よさを認めている。

【2種類のかがやきカード】

このような取組は、集団への貢献意欲を高め、貢献することによって**充実感、有能感**や自己有用感を高めることにつながると考えられます。また、自他のよさを認識することができ、**互いに高め合える学級づくり**にも結びつきます。

教師の振り返りによる授業改善

本校の教師は、学ぶ意欲の向上をめざした授業づくりを行い、児童の様子や成果と課題をレポートにまとめている。

レポートの項目は、右に示したとおりである。

児童の学びの様子から成果と課題を整理し、課題の改善に生かしている。

- [レポートの項目]
- ・実施日/教科/単元名
  - ・働きかけた要素
  - ・授業における働きかけの工夫
  - ・児童の様子
  - ・成果と課題及び感想

このように授業を振り返ることは、「PDCA」サイクルの「Do」の最中や直後に自身が「Check」をして次の「Do」に生かすことになり、授業力のさらなる向上と児童の意欲の高まりが期待できます。



### 3 実践のまとめ

C

A

11月に2回目のアンケートを実施して、6月の結果と比較した。

#### 「学習に関するアンケート」の結果から

学ぶ意欲を測定する「学習に関するアンケート」を実施し、重点目標を立てて取り組んだ結果、学校全体としては、全ての構成要素の数値が上昇した。

#### 「学習に関するアンケート」の結果〔校内全体〕（第1回:6月、第2回:11月実施）

	安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
第1回	3.10	3.15	3.58	3.65	3.25	2.48	3.45
第2回	3.15	3.23	3.63	3.67	3.35	2.57	3.54

	情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
第1回	3.12	3.00	2.97	3.17	3.09	3.20
第2回	3.17	3.04	3.07	3.25	3.15	3.33

学年の結果については、7月の研修で決めた学年の重点目標と関わりのある構成要素の数値が上昇した。教師が構成要素を意識して授業づくりや指導を行うことで伸びが期待できることが分かった。

#### 「ふだん思っていることに関するアンケート」の結果から

「学習に関するアンケート」と同時期に、自己有用感を測定する「ふだん思っていることに関するアンケート」（p.69 参照）を実施した。その結果、クラスでの自己有用感の全ての項目で数値が上昇した。

#### クラスでの自己有用感の結果〔校内全体〕（第1回:6月、第2回:11月実施）

	自己有用感	関係性	存在感	貢献	承認
第1回	3.66	4.22	3.54	3.66	3.78
第2回	3.83	4.44	3.78	3.83	3.88

#### 教師の手応え

- ・先輩の先生に「日常生活が落ち着いているから学習の効果が上がるのか、授業がいいから日常生活が落ち着いているのですか」と質問したことがあります。学業指導の取組を通して、どちらも大切であるということが分かりました。
- ・第1回のアンケート結果を受けて、2学期はさまざまな場面で、グループ活動や学び合いを取り入れました。その結果、第2回目の協同学習の結果は、ポイントが大きく上昇しました。子ども同士の学び合う姿は生き生きとしていて、学習意欲が高まるとともに、学級の和も広げることができました。
- ・個人のデータを見て、さまざまな要因を考えるようになりました。それらを意識して教材研究をし、授業の工夫をしました。その結果、子どもたちは、学習に集中して取り組めることが多くなりました。

#### 実践から学べること

- 学業指導の視点を意識して、子どもが意欲的に取り組む授業づくりを行うことで、学校課題の中心である思考力・判断力・表現力を高めることにつながっていると考えられます。
- 本校のように「学習に関するアンケート」を継続して実施すると、学ぶ意欲の学年の傾向や変容を把握することができます。
- 時間にゆとりがあり、児童の実態が分かってきた夏季休業中に校内研修を設定し、日頃の取組を紹介し合い、目標を共有することは、その後の実践の方向付けとなります。
- 協同学習の充実は、学習の広がりや深まりや、意欲の高まりにつながるとともに、学びに向かう集団づくりにもつながると考えられます。





那珂川町立小川中学校

生徒数	175	
学級数	普6	特支1
教職員数	18	[H25.5.1 現在]

## 取組のポイント

- 学ぶ意欲のプロセスを全職員が共通理解し、学年ごとに、どの構成要素にどのように働きかけるかを検討し実践した。
- ファイトタイム（確認テスト）で基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることで、「さらに調べたい」「もっと知りたい」などの学ぶ意欲を高めようとした。
- 授業中に適切な課題を与え思考力・判断力・表現力を育てることで、有能感を実感させた。
- 全職員で一人一人の生徒の実態を把握し共有することで、学年の枠を越えて個に応じた指導を実践した。

## 学業指導に関わるこれまでの取組

### 学びに向かう集団づくり

本校では平成10年度より「5かけの教育」を推進し、「目をかけ、声をかけ、心をかけ、願いをかけ、時間をかける」を実践することで、生徒一人一人の実態を把握し、個に応じて適切な指導を行い学ぶ意欲を高め、自己実現への援助を行ってきた。例えば、授業中教師は、生徒の実態に即して個に応じた声かけを行っている。また、生徒の進路希望等の情報は、当該学年や学級に関係する職員だけでなく全職員で共有することで、その都度適切な指導を行っている。

### 子どもが意欲的に取り組む授業づくり

授業中に生徒が意欲的に学習に取り組み課題を解決するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得が不可欠であるとの考えから、本校では、「とちぎの子どもの基礎・基本」を自校化した「小川中の基礎・基本」を作成し、生徒及び保護者に配布しその習得に努めている。習得を確実なものにするため、週2回ファイトタイム（確認テスト）を行うとともに、各担任は昼休みや放課後等に補充対策を行っている。

### 教員向け学業指導への取組アンケートの結果から

学業指導リーフレット（平成21年1月 栃木県教育委員会）を基に作成した「集団や授業づくりに関するアンケート」（p66 参照）を、本校教員に実施した。その結果、総合教育センターで実施した教職2～5年目研修（5年目）及び10年目研修受講者の平均（中学校）より本校教員が上回った質問項目の主なものは次のとおりであった。

- ・授業の中で一人一人が活躍できる場を意図的に設けている
- ・授業中のことについて、子どものよいところを認めたり、ほめたり、励ましたりしている
- ・一人一人の実態に応じて、授業の指導計画を工夫している
- ・授業の中で児童生徒が自ら選択できるように、多様な学習方法を用意している

このことから、授業中に生徒が活躍できる場を設けることで、称賛する場面を増やしたり、個に応じた指導を工夫したりしながら、生徒に自信をもたせ、学ぶ意欲を向上させる指導が行われてきたことが分かる。

## 1 学ぶ意欲に関する校内研修

R

P

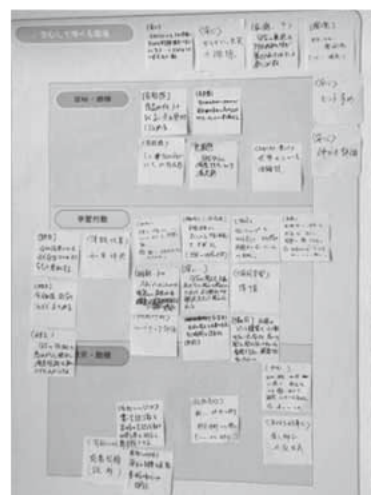
7月に行われた校内研修において、学ぶ意欲が育っていくプロセスや構成要素を理解した上で、二つのワークショップを行った。

### (1) ワークショップ1「学ぶ意欲をはぐくむ授業づくり」

学年ごとに、学ぶ意欲をはぐくむために実践していることや効果的だと思われる手立てのアイデアを付箋に書き、模造紙に貼りながら話し合い、情報を共有した。



【協議の様子】



【協議に使用した模造紙】

### (2) ワークショップ2「学ぶ意欲をはぐくむための目標設定」

学習に関するアンケートの結果をもとに各学年の結果を分析し、目標を達成するための手立てについて協議した。各学年で確認、検討した手立ては次のとおりであった。

	第1学年	第2学年	第3学年
さらに伸ばしたい要素	有能さへの欲求 向社会的欲求		
伸ばしたい要素	有能感	知的好奇心 挑戦行動	知的好奇心 深い思考
伸ばしたい要素への働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が生徒に教える（ミニティーチャー）</li> <li>習熟度別ワークシートの活用</li> <li>課題の明示と振り返りの時間の確保</li> <li>体験活動の機会の確保</li> <li>個の状況把握と称賛</li> <li>基礎・基本を確実に習得させた上での活用場面設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の確実な習得</li> <li>疑問を感じさせる意外性のある仕掛けづくり</li> <li>生徒自身による課題解決法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>驚きのある発見を導き出す導入の工夫</li> <li>時間をかけてじっくりと取り組む課題の提示</li> <li>学び合う場面の設定</li> <li>具体物や映像、画像の提示</li> <li>根拠を明らかにさせる指導</li> <li>身近な事例の教材化</li> <li>導入部分のQ&amp;Aで、驚きのある発見を導き出す</li> </ul>



## (3) 教師の振り返り

## 「本日の研修の振り返り」の記述から

- ・学校や学年のデータが示されたことにより、課題が明らかになり、学年にあった目標や手立てを考えることができました。
- ・学ぶ意欲を高めるためには、いろいろな段階で働きかけることが大切だと改めて思いました。また、他の教科の先生方との情報交換で、自分の授業に取り入れたいものなども見つかりました。
- ・日常的には個人として感覚的に判断していることを、学年ごとに話し合うことで客観的に捉えることができ、今後の課題も見つかりました。
- ・生徒の実態を学ぶ意欲の構成要素という観点から把握し、重点化して指導にあたらなければならない構成要素と手立てを確認することができました。どうすれば、学力向上を目指して学ぶ意欲を高めることができるのかということがよく理解でき有意義でした。

## 2 授業実践と授業研究会

D

C

## 挑戦への意欲を高める教師の投げかけ

## (1) 授業の概要

- ・第2学年理科「刺激はどこへ伝わるのか」
- ・学習課題「感覚器官で受け取った刺激は、どこへ行き、どのように伝えられるか」
- ・ヒメダカを使用した実験・観察を行う。

## 実験1

ヒメダカを円形の水槽に入れ、水槽の外側で縦縞模様の紙を回し、ヒメダカの泳ぐ様子がどうなるかを観察し結果を考察する。

## 実験2

縦縞模様の紙の動き以外の刺激を各班で考え、その刺激がヒメダカの行動にどう影響するかを考察する。



【ヒメダカを観察する生徒】

## (2) 学ぶ意欲を高める手立て

## ① 本時の流れを明示して、見通しをもたせる【有能さへの欲求】

感覚器官と刺激の組合せの復習を行った後、課題が提示され、課題を解決するための実験方法や考察の仕方の説明が行われた。1時間を見通すことができるワークシートが配布され、本時の流れを全生徒が理解し見通しをもった上で授業が行われた。

## ② 友達の意見を参考にして自分の考えをまとめさせる【協同学習】

実験結果を考察する場面では、まず個人の考えをもった上で班の中での学び合いが行われた。自分の考えと友達の考えとを比較したり関連付けたりすることができた。

### ③ 授業で分かったことを個人でまとめさせる【独立達成】

班別の話合いや班の代表者による発表の後に、学習課題に対する自分の考えを個人でまとめる時間をとった。学び合いの中で得た情報を参考にして、自分の意見を再構築する生徒が見られた。

### ④ 課題を解決するために必要な実験方法を生徒に考えさせる【挑戦行動】

実験1以外に課題を解決するための実験を生徒に考えさせることで、挑戦しようとする意欲を育てようとした。生徒は、縦縞模様の動き以外の刺激として、光、えさ、音などを考え実験を行い、ヒメダカの動きを観察した。

## (3) 授業研究会

- ・ワークショップ型授業研究会を行い、学ぶ意欲を高める手立ての効果について、付箋を模造紙に貼りながら話し合った。
- ・本時の後半で、学習課題を解決するために自分たちの考えた方法で実験を行わせたことの有効性について話し合い、次のような意見が出された。

- ・普段おとなしく目立たない生徒も、実験2を考える活動では自分の意見を発言する様子が見られた。
- ・縦縞模様以外の刺激を数多く考え実験を行う姿から、意欲の高まりを感じることができた。

※今回の授業研究会は少人数で行い、参加した教師が次回のワークショップ型授業研究会において各グループの中心となるようにした。ワークショップ型授業研究会の導入段階で、このような形態を取り入れることは、次回以降のワークショップを円滑に進める上で有効な手法と考えられる。



【協議の様子】



【協議で使われた模造紙】

教師が示した方法で実験に取り組ませた後、それ以外の新たな方法を考えさせたり、その方法の目的や視点を称賛したりすることで、新たな課題にも挑戦しようとする意欲が高まります。つまり、新たな方法を自分で考えさせる場を設定したり、その方法を称賛したりすることが、**挑戦行動**への有効な手立てとなるわけです。

また、話し合いの場を設定し学び合わせることにより、友達の意見を取り入れようとしたり、尊重したりする態度が育ち、**互いに高め合おうとする集団**の形成を期待することができます。つまり、授業中の**協同学習**が**学びに向かう集団**づくりに資すると考えられます。



## 失敗を恐れず難しい課題に挑戦させる班別活動

## (1) 授業の概要

- ・第2学年保健体育「ソフトボール」
- ・学習課題「個人技能を高めるため工夫した練習をしよう」
- ・班で高めたい技能を共有し、自分たちに必要な練習内容を考え実践する。
- ・他の班からのアドバイスで練習方法を再検討し、より効果的な練習内容に高めていく。
- ・教師は巡回指導をし、各班の練習に適切な支援をしていく。



【素早く集合し教師の指示を聞く生徒】

## (2) 学ぶ意欲を高める手立て

## ① 個人技能をさらに高めようとする意欲を育てる【挑戦行動】

高めたい技能を共有した班を編制し、各自の技能をさらに高めるためにどのような練習が必要かを考えさせ、実践させた。

各班とも練習の目的をよく理解し、少しレベルの高い内容を考え意欲的に練習に取り組んだ。



【話し合いで練習内容を決める生徒】

## ② 友達の意見を参考にして考えを深める【深い思考】

班で考えた練習内容やそのような練習を考えた理由をクラス全体に紹介させ、他の班からのアドバイスを受けて、より質の高い練習内容を考えさせた。

## ③ 「失敗しても大丈夫」という雰囲気をつくる【安心して学べる環境】

集合、整列などの生徒の動きは機敏で、授業がテンポよく展開された。授業の終盤で行われたゲーム形式の練習では、男子と女子、技能レベルの違う様々な生徒同士が、協力し合い励まし合うなど、明るい雰囲気の中で伸び伸びと活動する姿が見られた。



【協議の様子】

## (3) 授業研究会

- ・目標を共有した班の中で、教え合い指摘し合いながら練習を進めさせた指導の効果について話し合った。
- ・練習中失敗をした生徒を気遣う声かけが自然に出る雰囲気が、失敗を恐れず少し高いレベルの練習に挑戦しようとする態度につながることを確認した。

自分の技能を高めるため、少し高い目標に向けて挑戦しようとする意欲をはぐくむためには、個に応じた練習方法を、生徒自身が検討することが大切です。今回の班には、高めたい技能は同じでも多様なレベルの生徒が所属していたので、高い技能をもった生徒を中心に個に応じた練習方法を考え、教え合う姿が見られました。

また、協力し合い励まし合うクラスの雰囲気をつくるのが、互いに高め合おうとする心を育て、学びに向かう集団づくりにつながると思えます。



(1) 授業の概要

- ・第1学年理科「発生した気体は何だろう」
- ・学習課題「発生した気体Xは何だろう」
- ・発生させた未知の気体Xを捕集し、いくつかの実験を通してその気体は何であるかを考察する。
- ・気体を捕集したり気体の種類を特定したりするための方法や各気体の性質に関する知識は既に習得されており、それを活用して気体を特定する。



【実験に励む生徒】

(2) 学ぶ意欲を高める手立て

① 実験の予想を立てさせ好奇心を刺激する【知的好奇心】

未知の気体Xが何であるかを班別に考えさせ予想を黒板に書かせた。生徒は既習内容や生活体験を基に意欲的に考え、実験に向けての意欲を高めた。

② 友達との考えを比較する場を設定し、様々な見方に気付かせる【深い思考】

実験の考察はまず個人で行い、自分の意見をもたせた上で班の中での発表をさせた。そのため生徒は多様な考えに接するとともに、自分の考えと友達のを比較したり関連付けたりすることを通して、自分の考えを深めた。

③ 既習内容を活用し解決する学習を通し、できる喜びを味わわせる【有能感】

授業の最初に、既習内容である気体の性質及び気体の特定のための実験方法の確認を行った。実験結果の考察では、授業の最初に確認した知識や技能を活用し、気体を特定する作業を進めることができた。

④ 称賛することで学ぶ意欲を高める【有能感】

実験中の生徒の発言や器具の取扱い方、実験前後の準備や片付けなど、生徒の動きを教師が具体的に称賛することで、生徒の**有能感**を高めた。



【実験の予想を立てる生徒】

(3) 授業研究会

- ・ワークショップ型授業研究会を行った。
- ・教師が、実験中の生徒の発言や器具の取扱い方、準備や片付けなど、生徒の具体的な動きをその都度称賛した。このことによる生徒の意欲の高まりについて話し合いが行われた。
- ・基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得されていれば、それらを活用した学習で「できる」「分かる」感覚を味わうことができることを確認していた。

学習行動がうまくいった時や成功した時の「できる」「分かる」という感覚を味わわせ、さらに学びたいという意欲を向上させるため、既習内容を確認した上でそれを活用させることは効果的です。しかし、時には活用を通して基礎的・基本的知識を習得させる場面を設定することも大切です。このような場面を設定することで、授業の流れが多様化することにより、マンネリ化を防いだり、活用を通して生じた疑問が**知的好奇心**を高めたりします。このような手立ては、学ぶ意欲をはぐくむ上で有効です。

また、考えを深めさせるために自分の考えと友達のを比較する場面を設定することで、互いに高め合おうとする意識が高まり、**学びに向かう集団づくり**につながると考えられます。

ルーブリックを示したワークシート（英語）

◆ 「有能さへの欲求」への働きかけ

ワークシートにルーブリック※（評価基準表）を示し、本時の学習目標を各自にもたせた上で、励ましながら取り組ませることで、「自分にもできそうだ。」というイメージを抱かせている。

右のワークシートは英語の例で、もうすぐ来日する留学生に、日本のことを紹介する単元で使用した。

※ルーブリック

「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論であり、学生が何を学習するのかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である。  
（中央教育審議会高等学校教育部会資料より）

Page L.5 Mini-project 3- ( ) Name ( )

日本語  
もうすぐ来日する予定の留学生に、日本について説明できるよう、準備をしよう。

1 時々の毎年生が留学生のために書いたメモが完成しました。3つの説明を読んで、何の説明しているか考えよう。

It is a kimono that we wear in summer. We often wear it when we watch fireworks on hot summer nights. Beautiful flowers or butterflies are usually on these kimonos.

What is this?

It is a very cold food that we eat in summer. It comes in a cup. If you don't eat it quickly, it will go away. You can try many kinds, like strawberry, melon or Blue Hawaii.

What is this?

It is a lantern that we often use for festivals. There is a candle or a light bulb inside. The outside is made of paper and bamboo. It can be red or white with black karji.

What is this?

2 説明するためのメモを準備しよう。

①何についての説明なのか  
I'm going to tell you about ( ) .

②それは英語で言うとどんなものか  
It's ( ) .

③それは何でできているのか  
It's usually made of ( ) .

④何で使うことに使うのか  
We use it ( ) .

⑤最後に必ずその一言  
Why don't you ( ) ?

レベル	S	A	B	C
評価項目	1が書ける。 2の2-3語が書ける。	1が書ける。 2の2-3語が書ける。	1が書ける。 2の2-3語が書ける。	1が書ける。 2は複数形を書ける ことができる。

S : Super A : 十分満足できる B : 概ね満足できる C : 努力を要する

【英語のワークシートの例】

単元の目標や学習過程を明示したプリント（国語）

◆ 「有能さへの欲求」への働きかけ

単元の目標や言語活動、学習過程を明示したプリントを作成し、常に今取り組んでいる学習活動の意義を意識しながら授業に参加させている。ゴール地点とそこに行くまでの道筋が明確であるため、目的をもって意欲的に本時の学習に取り組むことができる。

右は、国語のプリントの例で、単元「ロゴマークやポスターを観察・分析して批評文を書こう」や言語活動「コンクールの審査員になって批評文を書こう」を授業の冒頭に示している。また、第1時から第5時までの学習の流れが示され、見通しをもたせている。

「観察・分析して論じよう」① ガイダンス

単元の目標  
ロゴマークやポスターを観察・分析して批評文を書こう

単元を貫く言語活動  
コンクールの審査員になって批評文を書こう

「学習の流れ」

時	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
学習目標	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。
言語活動	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。
学習内容	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。	単元目標を共有し、単元を貫く言語活動を理解する。

【国語のプリントの例】

3 実践のまとめ

C

A

「学習に関するアンケート」の結果から

本校生徒に対して「学習に関するアンケート」を6月（第1回）と11月（第2回）に実施した。7月に行った校内研修では、第1回アンケートを通して把握した学ぶ意欲の構成要素のうち、各学年において「伸ばしたい」「さらに伸ばしたい」構成要素を確認した。この「伸ばしたい」「さらに伸ばしたい」構成要素と「安心して学べる環境」の3点について、各学年の平均値を示したのが次ページの表である。



〔各学年の「伸ばしたい」とされた要素〕

	第1学年	第2学年		第3学年	
	有能感	知的好奇心	挑戦行動	知的好奇心	深い思考
第1回	1.94	2.57	2.34	2.44	2.50
第2回	2.09	2.57	2.18	2.63	2.70

〔各学年の「さらに伸ばしたい」とされた要素〕

	第1学年		第2学年		第3学年	
	有能さへの欲求	向社会的欲求	有能さへの欲求	向社会的欲求	有能さへの欲求	向社会的欲求
第1回	3.31	3.42	3.40	3.50	3.31	3.35
第2回	3.41	3.43	3.55	3.62	3.38	3.58

〔安心して学べる環境〕

	第1学年	第2学年	第3学年
第1回	2.80	2.59	2.69
第2回	2.89	2.78	2.76



〔友達のプレーに拍手を送る〕

- ・各学年の「伸ばしたい」とされた構成要素において、向上の傾向が見られることを確認できた。学年ごとに手立てを考え、授業実践を行ったことが数値の上昇につながった要因の一つと考えられる。
- ・研究授業や日頃の授業実践では、各学年の「伸ばしたい」として課題とされた構成要素以外に対しても適宜働きかけが行われたことが、多くの構成要素における向上につながったと考えられる。特に、「さらに伸ばしたい」とされた構成要素である**有能さへの欲求**と**向社会的欲求**は全ての学年において向上が見られた。
- ・学校全体で「5かけの教育」を推進し、生徒一人一人の実態把握と個に応じた適切な指導を行ったり、生徒間に認め合いの雰囲気醸成したりする取組が、**安心して学べる環境**づくりにおいて、有効な手立てとなっている。

「ふだん思っていることに関するアンケート」の結果から

本校生徒に対して、「ふだん思っていることに関するアンケート」を6月（第1回）と11月（第2回）に実施した結果の一部を次に示す。

クラスでの自己有用感の結果〔校内全体〕（第1回:6月、第2回:11月実施）

	自己有用感	関係性	存在感	貢献	承認
第1回	3.22	3.70	3.06	3.28	3.31
第2回	3.30	3.87	3.19	3.26	3.46

- ・2回実施した自己有用感の調査で、クラスでの自己有用感の結果を比較すると、多くの項目で伸びが見られた。

## 教師の手応え

- ・各学年とも高めようとする構成要素は違っても、そのベースにあるものは、やはり「安心して学べる環境」だと感じました。
- ・基礎的・基本的な知識・技能がしっかりと習得されていれば、授業の中で、「できる」という感覚に出会ったり安心して学べたりすることが確認できました。
- ・小グループの中で自分の考えを聞いてもらえる、または教えてあげられるという経験は、自己有用感を高め学ぶ意欲を刺激する上で効果的だと感じました。
- ・その教科の特性に合う学習訓練をしっかり行い、その上で安心して学び、協同して学び、認め合いながら学ぶ姿勢を築いていきたいです。
- ・小さなつぶやきを取り上げることが、生徒の自信を高めるとともに、授業の方向性を発展させることに改めて気付きました。
- ・日頃あまり表に出ない生徒でも、ある授業の中では存在感をアピールできるのは、その生徒を認める雰囲気醸成されているからであり、その基礎となるのは、日常生活における集団が安定することではないだろうか。

## 実践から学べること

- 学習に関するアンケートの結果を分析し、各学年で学ぶ意欲を高めるための手立てを考え、目標を共有することは、学ぶ意欲を高める上で有効な取組です。
- 初めてワークショップ型授業研究会を実施する際は、最初は少人数で行い、その参加者を次回以降の研究会では各班の中心として配置することで、円滑に研究会を進めることができます。
- 「5かけの教育」等により一人一人の実態を把握し個に応じて適切な指導を行うことは、生徒にとって**安心して学べる環境**を醸成し、それを基盤として学ぶ意欲を向上させるとともに、生徒の集団への**帰属意識**を高めることができます。
- 授業の冒頭で、本時や単元の見通しをもたせたり、結果を予想させたりすることで、自分にもできるかもしれないというイメージを抱かせ、**有能さへの欲求**へ効果的に働きかけたり、**知的好奇心**を高めたりすることができます。



## 【参考】 「学ぶ意欲」の各要素と「自己有用感」との相関関係

当センターでは、平成24年度に自己有用感に関する調査研究を行いました。そこで、自己有用感を「他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」と定義しました。また、調査研究を通して、自己有用感は、主に「存在感」「承認」「貢献」の三つの要素から構成されることが分かりました。これらの要素が互いに関連し合うことで、自己有用感が高められていきます。次の図は、これらの要素同士、そして要素と「関係性」との関連の強さを、矢印の大きさを模式的に示したものです。



- ・ **存在感**：「他者や集団の中で、自分は価値のある存在であるという実感」
- ・ **貢献**：「他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況」
- ・ **承認**：「他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況」

◇「**関係性**」は、安心感や被信頼感などから構成されており、自己有用感を獲得するための前提であったり、土台となったりするものと考えられます。

自己有用感を構成する三つの要素と「関係性」

協力校の児童生徒を対象とし、「学ぶ意欲」と「自己有用感」の質問紙調査結果の分析を行いました。学ぶ意欲の要素と自己有用感の要素の相互相関に関する表を、次に示します。表1は小学生、表2は中学生が調査対象です。

表1 学ぶ意欲の要素と自己有用感の要素の相互相関

(調査協力小学校3年～6年の児童 203名)

学ぶ意欲 \ 自己有用感		先生との関係における自己有用感			
		存在感	貢献	承認	関係性
認知・感情	有能感	.558	.517	.298	.249

学ぶ意欲 \ 自己有用感		クラスでの自己有用感			
		存在感	貢献	承認	関係性
学習行動	協同学習	.374	.479	.508	.461

※ 数値はピアソンの相関係数 (-1.0～1.0) による 全て0.1%水準で有意

協力小学校では、「有能感」と「先生との関係における自己有用感(存在感)」の間に、また、「有能感」と「先生との関係における自己有用感(貢献)」の間に強い有意な相関が見られました。さらに、「協同学習」と「クラスでの自己有用感(承認)」の間にも強い有意な相関が見られました。

これらのことから、例えば、授業中の発言に対して教師が価値付けをすることにより、有能感が高まることが考えられます。

表2 学ぶ意欲の要素と自己有用感の要素の相互相関

(調査協力中学校1年～3年の生徒 170名)

学ぶ意欲		自己有用感	クラスでの自己有用感			
			存在感	貢献	承認	関係性
認知・感情	有能感		.487	.374	.382	.355

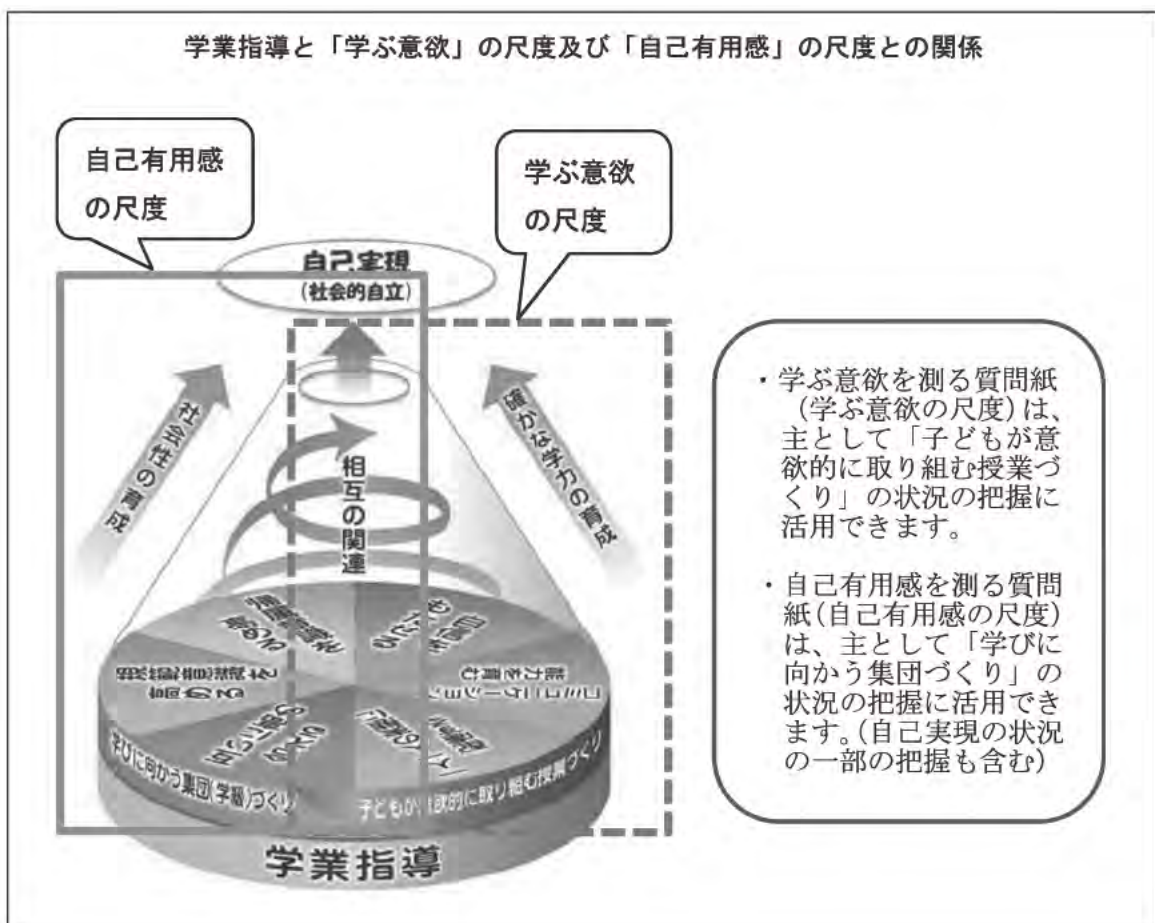
  

学ぶ意欲		自己有用感	クラスでの自己有用感			
			存在感	貢献	承認	関係性
学習行動	協同学習		.393	.389	.492	.332

※ 数値はピアソンの相関係数 (-1.0～1.0) による 全て0.1%水準で有意

協力中学校では、「有能感」と「クラスでの自己有用感（存在感）」の間に強い有意な相関が見られました。また、「協同学習」と「クラスでの自己有用感（承認）」の間に強い有意な相関が見られました。

これらのことから、例えば、協同学習の際に困っている友達に教えることにより、クラスの中で認められるようになることが考えられます。







## 学び合いについて

授業の在り方の一つとして、一斉指導で基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと教えるという、いわゆる教師主導の指導があります。一方では、学び合いや教え合いを通して、自他の考えを比較しながら様々な見方・考え方に気付くというような授業も行われています。

子どもが他者に教えるという行為は、「役に立ちたい」という**向社会的欲求**が表出したものです。教えることで教えた相手が分からなかったことを理解できたり、新たな考えに気付いたりしたことを実感すると、「役に立ってよかった。また自分で学んで教えよう。」と、さらに学ぶ意欲が高まるものと考えられます。また、教わる方も、自分が気付かなかった違う考えと自分の考えとを比べ検討・吟味することで、より深く考えることができます。つまり、**深い思考**につながると言えます。

この学び合い、教え合いを行う上での注意点を次に挙げます。

### ① 教師の意図に応じた学び合いの設定

やみくもに学び合いの場面を設けると、「活動あって学びなし」の状況に陥りがちです。そこで、単元の中で、本時のねらいがどのようなものであるかによって、「学び合い」の中身を変えていく必要があります。

例えば、「知識・理解」をねらいとするならば、「学び合い」のまとめで、教師が子どもたちの言葉を使いながら、身に付けさせるべき知識について説明することが考えられます。また、「関心・意欲・態度」をねらいとするならば、「学び合い」から生まれた子どもたちの考えを存分に出させ、教師があえてまとめることをしないとといった授業展開も考えられます。

### ② 活動の前の適切な指示

特に、話し合いを伴う際には、漠然と開始するのではなく、どういった目的の話し合いなのかを子どもたちが十分理解して活動を行うことが必要です。そこで、話し合いの前に、例えば次のような指示をします。

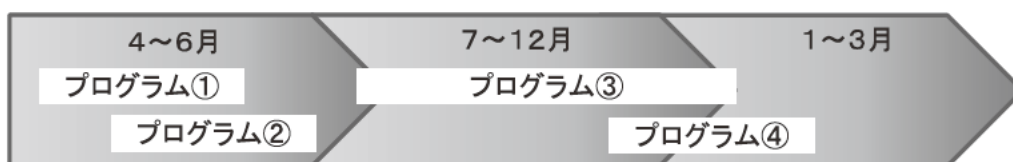
- ・考えを一つにまとめましょう。
- ・たくさんの考えを出し合ひましょう。
- ・たくさん出し合ったら、同じような考えでいくつかにまとめましょう。

# 第4章

## 校内研修例

「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」に資する校内研修のプログラムを紹介します。

なお、ここで示すプログラムは、次のような時期に実施することが考えられます。





## プログラム① 学ぶ意欲に関する課題の把握

### 研修の計画

#### 研修のねらい

学ぶ意欲を測定する「学習に関するアンケート」の結果から、学校、学年、学級の実態等を捉え、課題を共有し、指導の重点や方向性について話し合う。

#### 事前準備

- ・リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」（栃木県総合教育センターH25版）を各自読んでおく。
- ・児童生徒用アンケート「学習に関するアンケート」を実施し、「分析ツール」（p9参照）に各担任又は研修担当者が入力しておく。

#### 展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 ワークショップ(1) 学ぶ意欲の現状把握	15分/ 班	① 子どもの学ぶ意欲を見取った姿を付箋に記入する。 ② 内容を説明しながら付箋を模造紙に貼り、子どもの学ぶ意欲の現状について話し合う。 ※付箋はグルーピングして、小見出しを付ける。	・付箋 ・模造紙
2 学ぶ意欲の共通理解	10分/全体	・学ぶ意欲のプロセスモデル及びその構成要素について、説明を読み、共通理解を図る。	・本冊子 (p7～9参照)
3 ワークショップ(2) データ分析及び重点目標の設定	20分/全体  班	① 学校全体のデータを見て傾向を把握する。 ② データと子どもの姿の見取りを比較検討する。 ③ ②の結果から、学校課題を踏まえた上で学校全体の重点目標を決める。 ④ 同様に、学年(学級)のデータと子どもの姿の見取りとの比較検討を行い、「強み」と「弱み」をまとめ、学年(学級)の重点目標について話し合う*。  *校内研修ステップアップを参照	・「学習に関するアンケート」の分析結果 ・ワークシート
4 情報交換	10分/全体	・各班で話し合った子どもの傾向と重点目標を発表し合い、共通理解を図る。	
5 振り返り	5分/個人	・感想や今後の学習指導に生かしたいことをシートに記入する。	・振り返りシート

#### 評価

自校の子どもの現状や指導上の課題を共有し、学校、学年(学級)の重点目標について、考えることができたか。

#### ○ 校内研修ステップアップ

教員用アンケート「日頃の指導を振り返ってみましょう（p67参照）」を事前に実施し、視点ごとの平均点を算出しておくことで、教師側の指導の傾向を把握することができます。この結果と児童生徒の結果を照らし合わせることで、具体的な重点目標を設定することができます。

研修のポイント

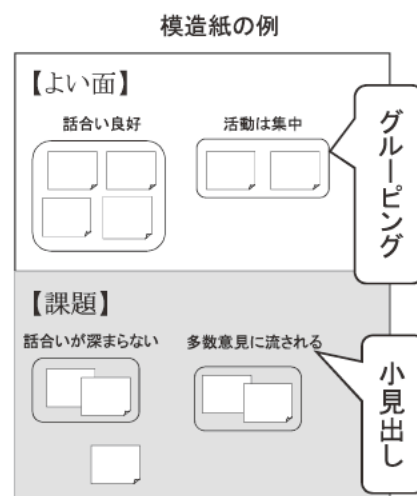
～学ぶ意欲に関する児童生徒の現状の共有～

ワークショップ(1)では、研修の導入として、日常の授業中の様子から、学ぶ意欲が表出された子どもの姿を付箋に記入します。記入した内容を話し合うことで、子どもの現状について共有します。

右の図のような模造紙を用意し、簡単な説明を添えて付箋を貼っていきます。貼られた付箋は、グルーピングします。

グループに小見出しを付けることによって、子どもの学ぶ意欲の「よい面」と「課題」を焦点化することができます。

小見出しは、下の図に示すようなワークシート中の「見取り」の欄に記入しておきます。



～見取りとデータの比較検討と学校課題を踏まえた重点目標の設定～

ワークショップ(2)では、学校、学年(学級)の課題を把握し、課題を解決するための重点目標を設定することを目指します。

学校種や学校の実態に応じて、学年、学級のどちらに視点をあてて検討するかを予め決めておきます。

まず、全体会で学校全体のデータから子どもの傾向を読み取ります。その結果とワークショップ(1)の結果について比較検討し、学校全体の重点目標を設定します。次に、学年(学級)の重点目標を学年やブロックに分かれ、右図のワークシートを用いて、同様の手順で設定します。

重点目標を設定する際は、学校課題の達成を念頭に置き、検討することが大切です。

ワークシートの例

「学習に関するアンケート」の分析( \_\_年)

- 学校課題(⇒学校全体の重点目標)  
言語活動の充実を図る(→深い思考、協同学習)
- 学年(学級)の傾向
 

	〔よい面・強み〕	〔課題・弱み〕
見取り	・話し合い良好 ・活動は集中	・話し合いが深まらない ・多数意見に流される
データ	・協同学習	・有能感 ・深い思考
- 学年(学級)の重点目標
 

学年学級	・協同学習を生かして、思考力を高める。 ・学習の過程を称賛して、有能感を高める。
------	---

研修後の活用等

- 設定した重点目標の達成を目指して、授業のしかけや児童生徒への言葉かけの工夫等を、まずは各自で実践します。取組や手立てについては、プログラム②で検討します。
- 「学習に関するアンケート」の代わりに自己有用感を測定できる「ふだん思っていることに関するアンケート」(p.69 参照)を用いることで、一人一人の自己有用感を高めるための手立てや集団づくりに重点を置いた研修を行うことが可能です。

〔参考文献〕

- ・「高めよう！自己有用感」栃木県総合教育センター 平成25年  
本プログラムで使用するアンケート用紙と分析ツールは、当センターWeb サイトで公開しています。



## プログラム② 学ぶ意欲をはぐくむ働きかけを考える

### 研修の計画

#### 研修のねらい

プログラム①で設定した学校・学年（学級）の重点目標を基に、各教科の特性を踏まえながら単元全体を見通し、学ぶ意欲をはぐくむ具体的な働きかけを考える。その働きかけを全職員で共有し、今後の指導に生かす。

#### 事前準備

- ・本冊子 p 8 を参照し、全員が学ぶ意欲のプロセスモデル及び構成要素を再確認しておく。
- ・研修担当者は、プログラム①で決めた「学校・学年・学級の重点目標」をまとめ、本研修の資料として準備するとともに、ワークショップの班編制を知らせておく。
- ・研修担当者は、プログラム①で決めた学年（学級）の重点目標や学校課題を踏まえ、班ごとに話し合う教科等をあらかじめ調整しておく。

#### 展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 研修のねらいと方法の確認	2分/全体	・研修のねらいと研修の進め方についての説明を聞く。	
2 目標の確認	3分/ 班	・プログラム①で決めた学校・学年（学級）の重点目標について確認する。前回の研修以降に授業で実施した取組を想起する。	・ 前回の資料等
3 ワークショップ	45分/ 班 個人 班 班	① 班で話し合う学年・教科・単元等を確認する。 ② 学年（学級）の重点目標を基に、教科や単元の特性を踏まえ、学ぶ意欲をはぐくむ働きかけを付箋に記入する。 ③ 模造紙に付箋を1枚ずつ貼りながら説明する。 ④ 具体的な働きかけや他の単元での生かし方について協議する。	・ 教科書 ・ 付箋、ペン ・ 模造紙（年間指導計画のコピー）
4 情報交換	5分/ 班	・他の班の付箋を読み合い、参考となる働きかけを知る。	
5 振り返り	5分/個人	・話し合いの内容を基に自己の授業を振り返り、今後、他の単元や教科でも実践する意欲をもつ。	・ 振り返りシート

#### 評価

学年（学級）の目標を基に、子どもの学ぶ意欲をはぐくむための具体的な働きかけを協議し、今後、実践する意欲をもつことができたか。

研修のポイント

～班編制の工夫による効果的な話し合い～

小学校・・・学年別班

大規模校ならば学年で、中規模校・小規模校ならば低学年・中学年・高学年ブロックで班を編制します。担当している学年の児童の様子をよく把握しているため、実態を踏まえた話し合いができます。

中学校・高等学校・・・教科別班

担当教科別での班を編制します。教科の担当教員が少ない場合は、複数教科で編制します。より専門性の高い話し合いが期待できます。

- ・小学校は、主に学級の重点目標を踏まえた働きかけを考え、中学校・高等学校では、学年の重点目標を踏まえた働きかけを考えます。
- ・学校課題や学年（学級）の重点目標を踏まえて、取り上げる教科や単元を重点化します。

～授業の手立てのアイデア記入～

付箋に記入する際は、各教科の単元のどの時間で行うのかを具体的にイメージするとよいでしょう。年間指導計画（単元の指導計画）を使用して、実際の指導場面をイメージしながら記入します。

記入例：算数

【知的好奇心】

教室にある三角形や四角形の形を探させ、身の回りの図形への興味をもたせる。

記入例：英語

【協同学習】

ロールプレイなど、教え合ったり、励まし合ったりする活動場面を設定する。

- ・働きかけのアイデアを考える際には、第2章の事例を参考にしてください。

～指導場面を想定したアイデアの共有～

単元（題材）全体を見渡して、構成要素への働きかけの場面や具体的な方法を検討します。適切と考えられる場面に付箋を貼りながら意見交換を行います。

～振り返りシート(例)～

研修を実際の指導に生かせるよう、「振り返りシート」をいつでも確認できるところに貼るなどして活用することが大切です。

※実際の指導内容の蓄積は、プログラム④参照

年間指導計画 ※拡大コピー

単元	単元目標	学習のねらい	指導計画	
			単元	時間
算数	図形と測量	図形と測量の学習を通して、図形と測量の学習の楽しさや面白さを感じ、図形と測量の学習の意欲を高める。	1	10
英語	英語の基礎	英語の基礎を学習し、英語の基礎を身につける。	1	10
国語	国語の基礎	国語の基礎を学習し、国語の基礎を身につける。	1	10

学ぶ意欲をはぐくむ各教科での働きかけ

1 学校課題

2 学年（学級）の重点目標

○学年（ ）教科（ ）単元（ ）

<学ぶ意欲への働きかけ>

<同じ働きかけができる他の単元名>

<感想>

～日常の指導における配慮点～

- ・本研修では、学年（学級）の重点目標の達成を目指し、学ぶ意欲の構成要素を絞って働きかけについて協議しましたが、日常の教科指導においては、他の構成要素にもバランスよく働きかけていくことも大切です。
- ・指導に当たっては、単元の目標や本時のねらいの達成を第一義として考えることが重要です。
- ・協議したことを基に実践した際には、その授業後に教員間で気軽に情報交換をしましょう。



## プログラム③ 学ぶ意欲をはぐくむ手立てを共有する授業研究会

### 研修の計画

#### 研修のねらい

子どもの姿を基にして、授業の観点及び学ぶ意欲の視点に沿って協議し、授業のねらいの達成度と工夫した点の有効性について検証し、成果と改善策を確認する。

#### 事前準備 (研修担当者)

- ・研修の目的や方法、授業の見方、付箋の書き方について共通理解を図っておく。
- ・授業前に付箋（ブルー）を配布しておく。
- ・初めて付箋を使ったワークショップ型授業研究会を行う場合は、説明用レジュメを用意しておく。

#### 展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 研修の目的と方法の確認	2分/全体	・初めての研修方法である場合、レジュメを使って説明を聞く。	・説明用レジュメ
2 授業者の反省	5分/全体	・反省を聞くことに加え、授業の観点及び学ぶ意欲の視点を確認する。	
3 各自が改善策等を付箋に記入	3分/個人	・一人1項目について、抽象的な表現は避け、具体的な内容を記述する。	・付箋（ピンク）
4 ワークショップ	30分/班	1 授業の観点について ① 参考になった点が書かれたブルーの付箋を出して話し合う。 ② 気になった点が書かれたブルーの付箋を出して話し合う。 ③ 助言や改善策が書かれたピンクの付箋を出して話し合う。 2 学ぶ意欲の視点について 上記の①、②、③を行う。 ※類似・関連した付箋はその都度出し合い整理し、グループごとに小見出しを付け、関連するものを線で結んで構造化を図る。	・模造紙 ・水性マーカー
5 研修成果の確認	10分/全体	・各班が、ワークショップで出された主な話題を発表し、必要に応じて質疑を行う。	
6 振り返り	5分/個人	・学んだことを各自が振り返り、シートや付箋等に記入する。	・振り返りシート

#### 評価

子どもの姿を基にして、授業の観点及び学ぶ意欲の視点に沿って、授業のねらいの達成度と工夫した点の有効性について協議し、改善策を出し合うことを通して、日頃の自分の授業を振り返ることができたか。

研修のポイント

～付箋の書き方・使い方～

- ① 本研修は観点多いため、授業中はブルーの付箋に参考になる点と気になった点を記入することとし、ワークショップに先立って、助言や改善策をピンクの付箋に書く時間をとります。
- ② 付箋は、説明しながら貼るようにし、類似・関連するものについては、その都度グルーピングしていきます。
- ③ 付箋のグループができたなら小見出しをつけます。グループ相互の関連を線で結ぶことによって構造化を図ります。

模造紙の例

〇月〇日( ) 〇〇科「 」 〇年〇組 授業者( )

	授業の観点	学ぶ意欲の観点	その他
参考になった点			
気になった点			

改善策の記入例

有能さへの欲求  
言語活動の内容を伝えるだけでなく、教師がモデルを示す。

～成果の共有化～

- ・ワークショップの終わりに、共有化のための発表を行います。
  - ・時間がない場合には、発表を行わず、成果物を見て回ることも考えられます。
- ◎最後に、必ず個人で振り返りを行い、今後自分が生かしていきたいことを明確にし、実践につなげていくようにします。

○ 校内研修ステップアップ

- ・ワークショップでは、模造紙に授業中に撮影した児童生徒の写真を置いて話し合うことも考えられます。話題になっている活動場面を想起しやすくなります。
  - ・大規模な中学校、高等学校では、多角的な視点に立った協議ができるように、教科を越えた班（例えば学年の班）で実施し、研修後には、教科部会を開き、話題を深めることも考えられます。
  - ・短時間でやりたいときは、付箋は使わずに発表だけを行うことも考えられます。
- (例) ①成果を発表（一人1分）②課題を発表（一人1分）③課題に対する助言や改善策を発表（一人1分）※時間があれば、成果や課題を班でまとめる。

○ 評価を指導に生かす

日常的に単元レベルで計画、実践、評価という一連の活動を行いながら、授業が展開されています。つまり、指導と評価の一体化という考え方のもと、評価を後の指導に生かすことが行われています。

学ぶ意欲についても、意図的・計画的に働きかける指導を行った際に、子どもの姿を基に働きかけの効果を検証し、次の指導に生かしていくことが大切です。

〔参考文献〕

- ・村川雅弘 「『ワークショップ型校内研修』の基礎・基本」 教職研修 2013年7月号 平成25年



## プログラム④ 実態の把握と効果の検証

### 研修の計画

#### 研修のねらい

授業研究会で出された意見や日常の授業の実践記録及び「学習に関するアンケート」の結果を分析し、実践した手立ての効果を検証する。

また、検証結果を基に成果と課題を明らかにし、次年度の学校課題や指導計画にどのように反映させるか検討する。

#### 事前準備 (研修担当者)

- ・ 授業研究会で出された意見の記録
- ・ 日常の授業の実践記録
- ・ 「学習に関するアンケート」の結果 (事前アンケートと事後アンケート)

### 展開

内容	時間/形態	概要及び留意点	資料
1 研修のねらいの確認	5分/全体	・ 研修のねらいと研修の進め方についての説明を聞く。	
2 アンケートのデータの確認	5分/ 班	・ 学年 (学級) のデータの事前と事後のデータの推移を確認する。	・ 「学習に関するアンケート」結果 (事前・事後) ・ 集計用紙
3 実践の発表	15分/ 班	・ 日常の授業の実践記録を発表し合うとともに、授業研究会で出された意見の記録を確認する。	・ 日常の実践記録 ・ 授業研究会の記録
4 成果と課題の確認	30分/ 班 全体	・ アンケート結果の変化と実践を関連付けて検討し、手立て (働きかけ) の効果を検証し、今後続けていくこと、改善すべきこと、新たに行うこと等を班で話し合い、全体で共有する。 ・ 次年度の学校課題等を決める際の参考資料とするために、話し合ったことを記録に残す。	
5 振り返り	5分/個人	・ 感想や今後の指導に生かしたいことをシートに記入する。	・ 振り返りシート

### 評価

アンケート結果の推移とこれまでの実践を分析することにより、今後も引き続き取り組んでいくことと改善していくことについて確認することができたか。

## 研修のポイント

### ～アンケートのデータの確認～

【アンケートデータ】 構成要素の平均値の推移をまとめた表（例）

- ・事前の調査と事後の調査結果の資料を用意します。
- ・事前の調査で課題があった構成要素の平均値の推移に注目します。
- ・右のような集計表にまとめると推移を捉えやすくなります。

	小3		小4		小5		小6	
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
知的好奇心	3.26	3.33	3.17	3.11	2.95	2.76	2.93	2.81
有能さへの欲求	3.52	3.76	3.46	3.65	3.47	3.49	3.49	3.52
向社会的欲求	3.51	3.56	3.33	3.35	3.32	3.33	3.52	3.76

### ～働きかけの効果の検証～

- ・データと実践記録を照らし合わせて考察します。（学年あるいは学級レベルで）
- ① 課題であった構成要素のデータの値が上昇した場合
    - 取り組んできた実践の何がよかったのかを確認する。
    - この実践が他単元や他教科でも適用できるか、その可能性を探る。
  - ② 課題であった構成要素のデータの値が上昇しなかった場合
    - 上昇しなかった原因を考える。
    - 実践に課題があるとすれば、働きかけの方法等を見直し、修正案を考える。
- ※ 課題であった構成要素以外についても、数値の推移に特徴があれば、その原因と働きかけを検討します。

### ～実践記録の共有～

教員間で実践を共有するために、日常の授業で各自が実践した取組を、記録として残しておきます。共有化の方法として、校内の教員用サーバーの活用が考えられます。

#### 実践記録の共有化の工夫例

\* 共有フォルダ内に、次に示す項目からなる表をエクセル等で作成し、ファイルとして格納しておく。（整理例：小学校は学年別フォルダに教科別ファイル、中・高校は教科別フォルダに学年別ファイル）

\* 実践を行った際には各自が記入する。

\* 年間指導計画の備考欄に、働きかける構成要素等を記述することも考えられる。

[項目例]

◇学年・組・実践日時

◇教科、単元（題材）名

◇働きかけた構成要素

◇授業における働きかけの工夫

等

### ○ 校内研修ステップアップ

働きかけの効果を検証する中で修正案を考える際に、新たなアイデアがなかなか思いつかない場合があります。そこで、外部講師の意見を聞いたり、先進校の取組を参考にしたりすることも考えられます。

#### [参考文献]

・村川雅弘 他 編著「『カリマネ』で学校はここまで変わる！」 ぎょうせい 平成25年



## 研究のまとめ

# 学業指導を充実させる4つのポイント

学業指導を充実させるポイントを4つにまとめました。このポイントを意識して教育活動に組織的に取り組むことで、「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」や「学びに向かう集団づくり」に結びつけていきましょう。

1

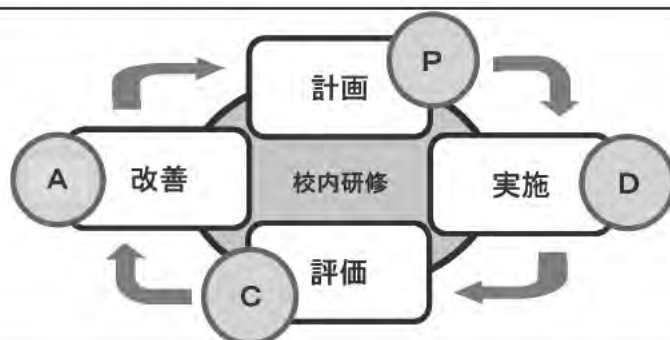
## 学ぶ意欲の構成要素へ働きかける

児童生徒の学ぶ意欲の状況を把握し、伸ばしたい構成要素を中心に単元（題材）や本時の展開の中で、有効な働きかけをしましょう。

2

## PDCAサイクルを生かす

PDCAサイクルを生かして、学ぶ意欲をはぐくむ取組を継続し、必要に応じて働きかけを改善していきましょう。



3

## 校内研修を有効に活用する

校内研修を通して、児童生徒の状況の把握、重点目標や授業における取組（働きかけ）の共有、成果と課題の確認等を効率的・効果的に行いましょう。

4

## 授業の中で集団づくりをする

授業の中でも「学びに向かう集団づくり」に取り組みましょう。特に、協同学習を通して、学級への所属感や連帯感を感じさせるようにすることが有効です。

# 資料編

本調査研究で使用したアンケートを掲載しました。各学校における学業指導の状況や学ぶ意欲の把握などに活用できます。

## 【資料の内容】

- ① 集団や授業づくりに関するアンケート
    - \* 教職員用リーフレット「あなたは、学業指導を知っていますか！」（栃木県教育委員会 平成21年）を基に作成し、今回の調査研究で使用した。
  - ② 日頃の指導を振り返ってみましょう（教員用アンケート）
    - \* ①のアンケートの改訂版
  - ③ 学習に関するアンケート
    - \* 児童生徒の学ぶ意欲を測る質問紙
  - ④ ふだん思っていることに関するアンケート
    - \* 児童生徒の自己有用感を測る質問紙
- ◇ ②、③、④の資料は、栃木県総合教育センターWebサイトからダウンロードして御活用ください。

([http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/leaflet/ichiran.htm#gakuryoku\\_kojo](http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/leaflet/ichiran.htm#gakuryoku_kojo))





<b>集団や授業づくりに関するアンケート（回答用紙）</b>  現在、学級担任である方は①を、担任でない方は②をマークしてください。		① あてはまる	② どちらかといえばあてはまる	③ どちらかといえばあてはまらない	④ あてはまらない
① 1    ② 2					
<b>○次の1～17の質問は、全員がお答えください</b>					
<b>&lt;集団づくりに関して&gt;</b>					
1	子どもたちが協力して取り組めるように活動を工夫している。	1	2	3	4
2	規律については、教職員間の共通理解のもと、ぶれない指導を実践している。	1	2	3	4
3	競い合う場面や助け合う場面を意図的に設定している。	1	2	3	4
4	一人一人が、個性や能力に応じた役割を担えるように工夫している。	1	2	3	4
5	時と場に応じた行動がとれるように指導を工夫している。	1	2	3	4
6	行事等に企画段階から子どもたちが関わられるように工夫している。	1	2	3	4
7	子どもたちと感動を共有できるように心がけている。	1	2	3	4
<b>&lt;授業づくりに関して&gt;</b>					
8	授業の中で一人一人が活躍できる場を意図的に設けている。	1	2	3	4
9	授業の中で友人の発表をしっかりと聞けるように指導している。	1	2	3	4
10	学習不適應の解決に、教職員が協力して取り組んでいる。	1	2	3	4
11	子どものよいところを認めたり、ほめたり、励ましたりしている。	1	2	3	4
12	授業の中で自分の考えをまとめ、発表できるように指導を工夫している。	1	2	3	4
13	一人一人の実態に応じて、授業の指導計画を工夫している。	1	2	3	4
14	授業中に、考える、互いに教え合う、指導する場をバランスよく設定している。	1	2	3	4
15	授業の中で児童生徒が自ら選択できるように、多様な学習方法を用意している。	1	2	3	4
16	授業中に小集団活動を取り入れ、子ども同士のコミュニケーションを促している。	1	2	3	4
17	自己評価、他者評価を生かした授業を実践している。	1	2	3	4
<b>○ここからの質問は、学級担任の方のみがお答えください。</b>					
18	他の学級、学年など、いろいろな集団との交流の場を設定している。	1	2	3	4
19	学年、学級で守るべきルールを具体的に定めている。	1	2	3	4
20	子どもたち自身に学級の約束を決めさせている。	1	2	3	4
21	日々の生活や行動を謙虚に振り返る時間や場を設けている。	1	2	3	4
22	学級の目標を子どもたちと一緒につくっている。	1	2	3	4
23	将来どんな生き方をしたいかを互いに話し合う機会を設けている。	1	2	3	4
24	当番活動や係活動を活用した学級経営をしている。	1	2	3	4
25	日記、作文などをとおして、自分の心を表現する指導を行っている。	1	2	3	4
26	実態調査、教育相談などをとおして、学習不適應の把握に努めている。	1	2	3	4
※該当する学校種の番号をマークしてください。・小学校① ・中学校② ・高校③		1	2	3	
※該当する教職経験年数の番号をマークしてください。（講師経験は含めない） ・5年目以下① ・10年目以下② ・20年目以下③ ・21年目以上④		1	2	3	4

## 日頃の指導を振り返ってみましょう(教員用アンケート)

☆次の1～27の質問に教えてください。

質問項目	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
1 一人一人が、個性や能力に応じた役割を担えるように工夫している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
2 団結し協力する素晴らしさが味わえるような活動の場を設定している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
3 子ども同士や教師と子どもとの良好な人間関係づくりに努めている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
4 自分たちの学級に愛着や誇りをもてるような感動体験をさせている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
5 きれいに整えられた温かみのある教室環境づくりに努めている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
6 指導内容を共通理解した上で、ぶれない指導を行っている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
7 家庭と連携を図りながら、学校や社会のルールについて指導している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
8 様々な活動や授業を通して、ルールの意義について随時指導している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
9 児童生徒が自らルールをつくる場を設定し遵守させている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
10 担任の思いや児童生徒の願いを反映させた学級(ホームルーム)の目標を設定している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
11 当番活動や係活動が主体的な活動になるように工夫している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
12 一人一人の得意分野を生かせる場や一人一人のよさを認め合う場を設定している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
13 夢の実現に向けて、具体的な活動場面を設定している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
14 一人一人の意見を大切にしたり、活躍できる場を設定したりしている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
15 学習課題や学習方法を自ら選択したり、決定したりできるように工夫している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
16 やや難しい課題に最後まで取り組ませることにより、成功体験を積ませている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
17 取組の過程や結果をほめたり、励ましたりしている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
18 「できた」「分かった」という喜びを味わえるような授業を展開している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
19 自分の学びのよさに気付かせるために、自己評価や相互評価の場を設けている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
20 授業の中で友人の発表をしっかりと聞けるように指導している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
21 自分と異なる意見や考えを尊重する態度を育てている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
22 ペア学習やグループ学習を取り入れるなど、学び合いのある授業を展開している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
23 話し合いでは、自信をもって発言できるように自分の考えをもたせる場面を設けている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
24 授業中の様子やノートの点検等から、一人一人の学習状況を把握するように努めている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
25 ねらいに達していない児童生徒への手立てを工夫している。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
26 個の学習状況や指導方法を教員間で共有し、授業づくりや指導に生かしている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない
27 児童生徒の学習状況を踏まえて、指導計画の見直しを図っている。	<input type="radio"/> あてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまる	<input type="radio"/> ややあてはまらない	<input type="radio"/> あてはまらない



# 学習に関するアンケート

年 組 番

あなたがどのような気持ちで学習しているのか、正直な気持ちを教えてください。それぞれ、4つの中からあてはまるものを1つえらび、○をつけてください。

1	2	3	4
あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない

No.	質 問 項 目	1つえらんで○をつけてください。			
例	算数と国語では、算数のほうが好きです。	1	②	3	4
1	授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。	1	2	3	4
2	もっとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。	1	2	3	4
3	毎日、明るく元気に生活している。	1	2	3	4
4	よくわからないことは、わかるまで調べたい。	1	2	3	4
5	いろいろなことを学ぶことは楽しい。	1	2	3	4
6	興味のあることは調べずにはいられない。	1	2	3	4
7	テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。	1	2	3	4
8	自分もっている能力をじゅうぶんに発揮したい。	1	2	3	4
9	社会のために役立つような人になりたい。	1	2	3	4
10	勉強面では友だちからたよられていると思う。	1	2	3	4
11	授業では友だちと協力して学ぶことも多い。	1	2	3	4
12	先生は学習のことについてほめてくれる。	1	2	3	4
13	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。	1	2	3	4
14	毎日の生活が充実していると感じている。	1	2	3	4
15	もっとかしこくなりたい。	1	2	3	4
16	授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。	1	2	3	4
17	できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。	1	2	3	4
18	学校では落ち着いて授業を受けている。	1	2	3	4
19	自分から勉強に取り組んでいる。	1	2	3	4
20	むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。	1	2	3	4
21	授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。	1	2	3	4
22	わからないことがあると、いろいろな方法で調べている。	1	2	3	4
23	自分は勉強がよくできると思う。	1	2	3	4
24	失敗しても学ぶことはおもしろい。	1	2	3	4
25	疑問やふしぎに思うことは、わかるまで調べたい。	1	2	3	4
26	むずかしい問題にであっても、かんたんには先生や友だちの助けは求めない。	1	2	3	4
27	クラスは発言しやすい雰囲気である。	1	2	3	4
28	思いやりのある人になりたい。	1	2	3	4

◎どの質問にも1つずつ○がついているかどうかを、たしかめてください。ご協力ありがとうございました。

# ふだん思っていることに関するアンケート

成績などには一切関係ありませんので、安心して教えてください。

年 組 番

		5	4	3	2	1	
(1) あなたが、普段思っていることを教えてください。 なお、「悪口を言う」や「ふざける」などの良くない行動によって「OOの役に立っている」などと思う場合は、「あてはまる」には含めません。		とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	
No	質問項目	1つえらんで○をつけてください。					
1	わたしは、家の人の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1	
2	わたしは、家の人を信頼している。	5	4	3	2	1	
3	わたしは、家の人と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1	
4	わたしは、家の人に支えられていると思う。	5	4	3	2	1	
5	わたしは、家族の重要な一員だと思う。	5	4	3	2	1	
6	わたしは、家の人から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1	
7	わたしは、クラスの人の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1	
8	わたしは、クラスの人を信頼している。	5	4	3	2	1	
9	わたしは、クラスの人と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1	
10	わたしは、クラスの人に支えられていると思う。	5	4	3	2	1	
11	わたしは、クラスの重要な一員だと思う。	5	4	3	2	1	
12	わたしは、クラスの人から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1	
13	わたしは、先生の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1	
14	わたしは、先生を信頼している。	5	4	3	2	1	
15	わたしは、先生と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1	
16	わたしは、先生に支えられていると思う。	5	4	3	2	1	
17	わたしは、先生にとって重要な生徒だと思う。	5	4	3	2	1	
18	わたしは、先生から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1	
		5	4	3	2	1	
(2) あなたは、ふだんの生活の中で、次の19から30の経験がどのくらいあると思いますか。		よくある	ときどきある	どちらともいえない	あまりない	まったくない	
No	質問項目	1つえらんで○をつけてください。					
19	わたしは、家の手伝いをすることがある。	5	4	3	2	1	
20	わたしは、家の人から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1	
21	わたしは、家の人から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1	
22	わたしは、家の人からほめられることがある。	5	4	3	2	1	
23	わたしは、クラスの手伝いをすることがある。	5	4	3	2	1	
24	わたしは、クラスの人から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1	
25	わたしは、クラスの人から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1	
26	わたしは、クラスの人からほめられることがある。	5	4	3	2	1	
27	わたしは、先生の手伝いをすることがある。	5	4	3	2	1	
28	わたしは、先生から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1	
29	わたしは、先生から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1	
30	わたしは、先生からほめられることがある。	5	4	3	2	1	

◎どの質問にも1つずつ○がついているかどうかを、たしかめてください。

## ◇ 参考文献・参考資料

### 1 参考文献

- ・ 櫻井 茂男 「自ら学ぶ意欲の心理学—キャリア発達の視点を加えて」 有斐閣 平成 21 年
- ・ 村川 雅弘 他 編著 『『カリマネ』で学校はここまで変わる!』 ぎょうせい 平成 25 年
- ・ 村川 雅弘 『『ワークショップ型校内研修』の基礎・基本』 教職研修 2013 年 7 月号 教育開発研究所 平成 25 年
- ・ 平木 典子 「子どものよさに気づく—ほめるための基本」 児童心理 4 月号 金子書房 平成 25 年
- ・ 国立教育政策研究所 「平成 25 年度全国学力・学習状況調査 クロス集計 報告書」 平成 25 年
- ・ 文部科学省 国立教育政策研究所 「キャリア教育を創る」 平成 23 年
- ・ カリキュラム研究会 編 「学校力—時代をひらく方略と組織マネジメント」 三省堂 平成 18 年

### 2 参考資料

〈栃木県総合教育センター作成資料〉

- ・ 「栃木の『学校力』の向上」 平成 25 年
- ・ 「高めよう! 自己有用感」 平成 25 年
- ・ 「学ぶ意欲をはぐくむ」 平成 23 年
- ・ 「組織力の向上を図る校内研修の充実」 平成 22 年

〈栃木県教育委員会作成資料〉

- ・ 「とちぎの子ども『確かな学力』向上のために～平成 25 年度全国学力・学習状況調査から～」 平成 25 年
- ・ 「学業指導の充実に向けて」 平成 24 年
- ・ 「あなたは、学業指導を知っていますか!」 平成 21 年

## ◇ 調査協力校

栃木市立西方小学校

那珂川町立小川中学校





## 学業指導の充実

～子どもが意欲的に取り組む授業づくりを通して～

発行 平成 26 年 3 月  
栃木県総合教育センター 研究調査部  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303  
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>



※本冊子は下のWebサイトでもご覧いただけます。  
[http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/gakugyoshido\\_h25/](http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/gakugyoshido_h25/)